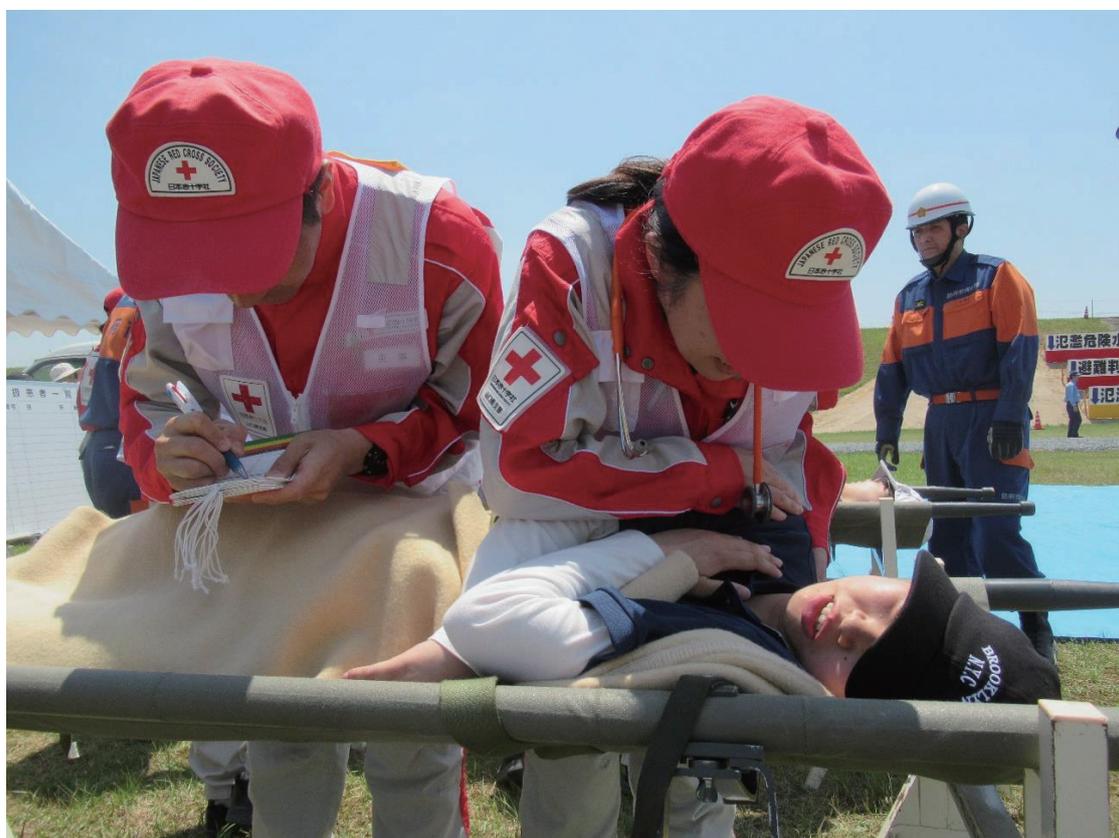


令和元年度  
事業報告書



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

山口県支部

# Mission statement

## 日本赤十字社の使命

わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

## わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する  
7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、  
苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、  
いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、  
赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、  
すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、  
互いの力を合わせて行動します。

## わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。

## 目 次

はじめに .....	1
1 災害救護体制の充実・強化 .....	2
2 健康・安全のための知識・技術の普及 .....	9
3 青少年赤十字活動 .....	12
4 国際活動 .....	16
5 赤十字奉仕団による活動 .....	18
6 赤十字思想の普及 .....	22
7 赤十字活動資金の確保 .....	28
8 支部庁舎の改修 .....	30
9 医療事業 .....	31
10 看護師の養成 .....	35
11 血液事業 .....	36
12 評議員会及び監査 .....	41

## はじめに

平素から、日本赤十字社山口県支部・施設の活動に、格別のご支援とご協力をいただいております。厚くお礼申し上げます。

新しい時代「令和」の幕開けとなった昨年度は、日赤にとって、新名誉総裁となられた皇后陛下をお迎えするという節目の年でしたが、その一方で、県内では大きな災害はありませんでしたが、度重なる大雨や台風によって、全国の各地で甚大な被害が生じました。

こうした災害に対し、日赤は、200班を超える医療チームを派遣し、各地に支援物資を届けるとともに、多くのボランティアが活躍するなど、全社を挙げて、積極的に救護活動に取り組みました。

そして現在、新型コロナウイルス感染症が、国内はもとより世界的に深刻な問題となっておりますが、日赤では、その発生初期から、クルーズ船等に対して200人を超える医療要員を派遣するとともに、現在も、日赤病院での患者、感染者の受け入れなどに全力を尽くしております。国民を挙げての取り組みにより、一日も早くこの困難な事態が終息することを祈りたいと思います

こうした有事の全社的な取り組みに加え、平時においても、令和元年度は、皆様のご支援、ご協力により、おかげをもちまして、山口県支部と施設が一体となって、人間のいのちと健康、尊厳を守るための赤十字事業の充実、発展に取り組むことができました。

まず、支部事業については、災害救護体制の充実・強化をはじめ、健康・安全のための知識・技術の普及、青少年赤十字や奉仕団活動、国際救援など、各種事業を円滑に推進することができました。

これら人道支援活動の財源となる「活動資金」についても、地区・分区や奉仕団等関係者の皆様のご協力により、多くの個人、法人の皆様からご支援をいただき、目標を達成することができました。

また、国内外の被災者のため、多くの義援金・救援金が寄せられたことに、心より感謝申し上げます。

次に、医療事業については、両病院を通じて、医療機能の分化・連携、地域包括ケアシステムの構築など、医療・介護の制度改革に適切に対応し、県民ニーズに応じた地域医療の充実や災害時における医療提供体制の強化に努めました。

また、血液事業については、移動採血車の稼働数の増や計画的なイベント・キャンペーンの開催による「やまぐち献血ルームForYou（県内唯一の固定施設）」の献血者の増により、前年度を上回る献血者を確保するとともに、中四国ブロックの中での広域需要管理体制のもと、血液製剤の安定供給に努めました。

詳細については、別記のとおり、事業ごとに取りまとめましたので、ご報告申し上げます。お気づきの点など、ご意見をいただければ幸いです。

今後も、職員、奉仕団員の総力を結集して、誰もが抱く「救いたい」という気持ちをあらゆる方法で実践・実行する赤十字活動を、未来へ向かって続けてまいりますので、皆様方の一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本赤十字社山口県支部・施設

# 1 災害救護体制の充実・強化

災害救護は、日本赤十字社法に明示された赤十字の事業の中で最も重要なものです。山口県支部では、いつ起こるか分からない災害に備えて、災害医療コーディネートチームや常備救護班を配備し、各施設に救護要員を登録して訓練や研修を行うとともに、必要な資器材を整備して体制の強化を図りました。

特に、平成30年7月大雨災害の教訓から、支援・受援を含めた広域的な災害にも迅速に対応するため、山口県支部災害救護計画の見直しを行いました。

また、災害における被害を軽減・抑止するため、防災・減災の普及・啓発を進めるなど、災害マネジメントサイクル全体に対応できる体制を充実しました。

## (1) DMAT・救護班の派遣

### ① 新型コロナウイルス対応

新型コロナウイルス感染症に対応するため、国の要請に基づき、山口県支部管内に所属するDMAT隊員1名をクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」に派遣しました。

日赤全体では、同クルーズ船や武漢市からのチャーター便帰国者への対応として、2月6日から3月6日の間に255名の医療要員を派遣しました。



### ② 大雨等災害対応

当支部からは救護班の派遣はありませんでしたが、日赤全体では台風19号災害に183班、8月27日からの大雨災害に12班、台風15号災害に17班の救護班等の医療チームを派遣しました。



## (2) 山口県支部災害救護計画の見直し

山口県支部が第3次救護体制（県外からの応援が必要な大規模災害発生時）になった場合に備えて、救護活動が迅速かつ円滑に遂行できるよう計画の見直しを行いました。

### 《主な見直し項目》

- ・災害医療コーディネートチームを1チームから3チームに増
- ・受援時の支部災害対策本部要員の増加と役割の明確化

## (3) 災害医療コーディネートチームの編成

大規模災害時の医療ニーズの把握や本社・支部の災害対策本部に対する助言、被災地自治体災害対策本部との連携・調整を図るために災害医療コーディネートチームを編成しました。

- ・編成基準：コーディネーター1名＋コーディネートスタッフ3名（計4名）
- ・編成数：3チーム（山口赤十字病院2、小野田赤十字病院1）

(4) 救護班・DMATの編成、救護要員の養成・訓練・研修の実施

① 救護班と救護要員の登録・養成

災害発生後、直ちに医療救護活動ができるよう、山口及び小野田両赤十字病院の医師や看護師等で編成した常備救護班8個班を配備するとともに、各施設に救護要員を登録し、救護体制の強化に努めました。

【施設別救護班編成状況および救護要員の職種別登録者数（令和元年5月1日現在）】

施設	区分	常備救護班 編成数	本部災害 対策要員	救護班要員					血液供給要員	特殊救護要員	合計
				医師	看護師長	看護師	主事	薬剤師			
支 部		－	10人	－	－	－	－	－	－	10人	
山口赤十字病院		6個班	6人	12人	10人	324人	24人	2人	－	378人	
小野田赤十字病院		2個班	3人	3人	4人	8人	11人	2人	－	31人	
血液センター		－	7人	2人	－	21人	17人	－	9人	56人	
合 計		8個班	26人	17人	14人	353人	52人	4人	9人	475人	

【救護班1個班の編成基準 ※第1班には、薬剤師1名を加えて7名で編成します。】

医師（班長）	看護師長	看護師	主事（事務）	計
1人	1人	2人	2人	6人

② DMAT（災害派遣医療チーム）の編成

災害急性期（概ね発災後48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームを山口赤十字病院に2チーム編成し、県内外で発生する大規模災害に備えています。

施設名	チーム数	医師	看護師	業務調整員	合計
山口赤十字病院	2チーム	2人	6人	4人	12人

③ 救護要員の訓練・研修

赤十字の使命である災害救護活動を迅速かつ的確に実施するため、計画的な救護訓練や研修会を通じて救護知識の習得と技術の向上を図りました。

【災害救護訓練】

訓練名	開催月日	主催	会場	参加者数
国土交通省 佐波川水防演習	5月25日	国土交通省 中国地方整備局	防府市 佐波川河川敷	(職員) 12人 (ボランティア) 10人
山口県総合防災訓練	6月9日	山口県 岩国市、和木町	いわくに消防 防災センター	(職員) 12人 (ボランティア) 10人
高知県総合防災訓練	6月9日	高知県、香美市	高知県立 鏡野公園	7人
救護員としての赤十字 看護師研修総合演習	10月20日	日本赤十字社 山口県支部	日赤山口県支部	15人
中国地区 DMAT実動訓練	10月26日	中国地 DMAT 連絡協議会	日赤山口県支部 山口赤十字病院 山口県庁ほか	206人

訓練名	開催月日	主催	会場	参加者数
中国・四国ブロック各 県支部合同災害救護訓練	11月9日 ～10日	日本赤十字社 鳥取県支部	鳥取赤十字病院 ほか	11人
山口県支部災害救護訓練	1月18日	日本赤十字社 山口県支部	日赤山口県支部	救護員22人 スタッフ10人

### 【災害救護研修】

訓練名	開催月日	主催	会場	参加者数
救護員としての 赤十字看護師研修	4月～2月	山口赤十字病院、 小野田赤十字病院	山口赤十字病院 小野田赤十字病院	11人 4人
全国赤十字救護班研修会	7月14日 ～16日	日本赤十字社	日赤本社	1人
	8月24日 ～26日		日赤大阪府支部	3人
日赤災害医療 コーディネーター研修会	9月14日 ～15日	日本赤十字社	日赤本社	2人
こころのケア指導者 養成研修	11月15日 ～17日	日本赤十字社	日赤本社	1人
原子力災害対応基礎研修会	11月28日 ～29日	日本赤十字社	松山赤十字病院	5人
こころのケア要員 養成研修会	2月8日	日本赤十字社 山口県支部	山口赤十字病院	15人
第5ブロック支部災害 対策本部要員研修会（中止）	2月27日 ～28日	日本赤十字社 高知県支部	高知県赤十字 血液センター	新型コロ ナウイルス 感染拡 大防止の ため中止
こころのケア要員 養成研修会（中止）	3月7日	日本赤十字社 山口県支部	小野田赤十字病院	



山口県総合防災訓練



5ブロック合同災害救護訓練



山口県支部災害救護訓練



救護員としての看護師研修



こころのケア研修

### (5) 救護装備の整備

#### ① 災害救護装備の更新及び整備

災害時等に迅速・的確に対応するために、毎年必要な救護装備の更新及び整備を行っています。今年度は、救護員用装備の整備を行いました。

また、業務用無線については、国が進める新規格に対応するために救護用車両搭載局の更新を行うなど、いつ起こるかかわからない災害に備えました。

ア 救護員用装備

品 目	数 量
ミネラルウォーター(2ℓ入)	132本
マジックライス	200食
トリアージタグ	1,000枚

イ 業務用無線局

品 目	数 量
150MHz 帯車載局	7局
400MHz 帯車載局	8局

【保有救護用資・器材】

品 目	支部	病院	血液センター	合計
医療セット	2セット	2セット		4セット
携帯用医療セット	1セット			1セット
パイプテント	8張	2張	4張	14張
ドラッシュテント	2張			2張
エアテント	2張	1張		3張
担架	13台	3台		16台
折畳寝台	17台	13台		30台
発電機	2台			2台
蓄電池	2台			2台
投光器	1台			1台
折畳テーブル	4台			4台
折畳ホワイトボード	2台			2台
除染装備一式	1セット			1セット
防護マスク	12個			12個
防護服セット	12セット			12セット
除染済者セット	50セット			50セット
個人線量計	28個			28個
サーバイメーター	1個			1個
衛星携帯電話	5台		3台	8台
無線(150MHz)	17台	7台	10台	34台
無線(400MHz)	17台	4台		21台

【保有救護用車両】

車両種別	支部	山口病院	小野田病院	合計
救急車	1台	1台	1台	3台
災害救援車	6台		1台	7台
合計	7台	1台	2台	10台

② AEDの整備

人間の苦痛を予防・軽減するという「赤十字の使命」を達成することを目的に、各地区・分区の要請等により公共施設等へAEDの整備を行いました。

【AEDの整備台数】

(単位：台)

年度	H19～25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	合計
新規	118	11	4	8	6	0	0	147
更新	—	27	26	17	14	12	2	98

(6) 救援物資の備蓄・配布

赤十字では、災害等の発生に備えて救援物資を備蓄しており、本年度も火災等の被災者へ配布しました。

【備蓄数】

	毛 布	緊急セット	安眠セット	バスタオル	タオルケット
地 区 分 区	4,013 枚	653 個	598 個	1,558 枚	0 枚
山 口 県 支 部	420 枚	84 個	54 個	312 枚	300 枚
小野田赤十字病院	340 枚	1,008 個	70 個	0 枚	0 枚
合 計	4,773 枚	1,745 個	722 個	1,870 枚	300 枚

【配布数】

	毛 布	緊急セット	安眠セット	バスタオル
配 布 数	105 枚	40 個	19 個	125 枚



毛布



緊急セット



安眠セット



バスタオル

(7) 臨時救護

公的な式典、大会等に際して、参加される多くの人々の万が一に備えるために、救護員を派遣しました。

【主催者別実施内訳】

主催者等	回数 のべ日	主な行事名	主な派遣場所	のべ 派遣人数
山口県	5回／7日	山口県南方地域戦没者慰霊祭ほか	沖縄県 山口市、周南市	10人
山口商工会議所	2回／3日	山口市ふるさとまつり	山口市	5人
山陽小野田市	3回／3日	やけの美夕フェスタ ほか	山陽小野田市	3人
山口県遺族連盟他	2回／2日	山口県護国神社慰霊祭	山口市	5人
山口青年会議所	1回／1日	青空天国いこいの広場	山口市	2人
独立行政法人	1回／1日	アビリンピックやまぐち	山口市	1人
下関市	1回／1日	ツールドしものせき	下関市	5人
山口県総合支援 学校体育連盟	1回／1日	山口県総合支援学校体育大会	山口市	2人
山口県陸上協会	1回／1日	全日本実業団ハーフマラソン	山口市	1人
NHK山口放送局	1回／2日	学校音楽コンクール	山口市	2人
山口県消防協会	1回／1日	消防操法大会	山口市	1人

主催者等	回数 のべ日	主な行事名	主な派遣場所	のべ 派遣人数
エフエム山口	1回／1日	コスモアースコンシャス	周防大島町	1人
日赤山口県支部	4回／8日	青少年赤十字リーダーシップ・ トレーニング・センター、 救急法競技大会	山口市 山陽小野田市	8人

【イベント種別実施内訳】

イベント種別	派遣回数	のべ派遣日数	のべ派遣人数
大会・式典	10回	13日	16人
スポーツ大会等	6回	6日	14人
祭り等	5回	6日	9人
宿泊行事	3回	7日	7人
合計	24回	32日	46人

(8) 死亡者弔慰金

県内で災害等により死亡された方のご遺族に対して弔慰金を交付しました。

【死亡者弔慰金】

件数	交付金額
13件	380,000円

(9) 義援金の募集

災害等の発生に際し、日本赤十字社では被災者を支援するために、義援金を募集し、全額を被災地の義援金配分委員会へ送金しました。

義援金区分	件数	金額
東日本大震災義援金	110件	3,155,964円
平成28年熊本地震災害義援金	63件	722,706円
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	26件	160,842円
平成30年7月豪雨災害義援金	82件	1,681,653円
平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	41件	220,433円
京都府放火事件被害者義援金	8件	30,033円
令和元年8月豪雨災害義援金	50件	1,088,184円
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	49件	1,730,140円
令和元年台風第15号東京都災害義援金	4件	16,931円
令和元年台風第19号災害義援金	169件	23,848,910円
令和元年台風第19号災害義援金（福島県指定）	1件	123,667円
合計	603件	32,779,463円

【令和2年3月末までの総合計】

義援金区分	件数	金額
東日本大震災義援金	2,695件	1,439,684,851円
平成28年熊本地震災害義援金	1,146件	200,438,716円
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	235件	28,538,859円
平成30年7月豪雨災害義援金	403件	69,925,780円
平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	101件	6,094,572円

(10) 防災・減災の普及・啓発

広く県民を対象とした地域の防災力と減災意識向上を目的とする講習会を実施しました。

【開催団体別】

開催団体種別	回数
町内会・自治会組織	11回
赤十字関係	9回
学校関係	14回
幼稚園・保育園関係	6回
企業・法人	3回
その他団体	11回
合計	54回



① 地域における防災講習会

自治会・町内会や企業・団体等に対し、防災講和、避難所で役立つ知識と技術、炊き出し指導や持ち出しリュック作成などの講習会を20回実施しました。

② 赤十字防災セミナー

平成29年度より、日本赤十字社が全国で展開している、災害エスノグラフィーや災害図上訓練、応急手当等の赤十字防災セミナーを29回実施しました。

③ 教育現場における防災教育プログラム

下関地方気象台と日本気象予報士会西部支部との3社で構成する『いのちを守る防災教育を推進する会』として、自らのいのちを守る力を身につけ、防災意識向上を図るグループワークである「大雨防災ワークショップ」を県の教職員研修等で実施しました。

また、日本赤十字社が作成した防災教育教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用し、学校の授業で防災教育を行いました。

(11) 防災ボランティアの養成

令和2年3月14日に開催を予定していた「防災ボランティア養成研修会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

## 2 健康・安全のための知識・技術の普及

日本赤十字社では、「人間の苦痛を予防・軽減し、生命の尊厳を確保する」という赤十字の理念のもと、具体的な知識や技術として一般の人々に広めることを目的として、『いのちを守る赤十字講習会』を開催しました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年3月は全ての講習会を中止しました。

### 《講習の種類と内容》

講習名	講習内容
救急法	心肺蘇生、AEDの使い方、気道異物除去、急病・けがの手当（止血・包帯・固定）、搬送等
水上安全法	泳ぎの基本と自己保全、事故者の救助および応急手当、海・河川・湖沼での事故防止等
健康生活支援講習	誰もが迎える高齢期を、健やかに生きるために必要な健康増進の知識や、高齢者の支援・自立に役立つ介護技術等
幼児安全法	こどもに起こりやすい事故の予防と手当、こどもの病気と看病、こどもに対する心肺蘇生及びAEDの使い方等
家庭あんま術	病気の予防や疲労回復などの健康増進を目的とした、家庭でできるあんま術の知識と技術



救急法養成講習



水上安全法救助員養成講習

### (1) 各種講習の実施

区分	実施回数	受講者数
救急法基礎講習	13回	273人
救急法救急員養成講習	10回	141人
救急法短期講習	309回	11,973人
水上安全法救助員Ⅰ養成講習	2回	54人
水上安全法短期講習	8回	430人
幼児安全法支援員養成講習	1回	19人
幼児安全法短期講習	22回	519人
健康生活支援員養成講習	5回	47人
健康生活支援短期講習	10回	577人
家庭あんま術講習	3回	103人
合計	383回	14,136人



健康生活支援員養成講習



幼児安全法支援員養成講習

(2) 講習普及指導員の養成及び育成

各講習を普及推進していくために指導員を養成しています。

令和元年度は、日本赤十字社山口県支部救急法等講習普及計画に基づき、赤十字の理念と使命を理解し、十分な知識と技術を持った指導力のある実動的な指導員を養成するため、岡山県・鳥取県が行う水上安全法指導員の養成講習会へ2名が受講しました。

また、各講習を普及推進していくために、定期的な研修等を通じ資質の向上に努めます。

【講習別指導員内訳】

区 分	人 数	令和元年度養成人数
救急法指導員	175人	—
水上安全法指導員Ⅰ	6人	—
水上安全法指導員Ⅱ	20人	2人
健康生活支援講習指導員	31人	—
幼児安全法指導員	75人	—
合 計	307人	2人

【各講習指導員の育成】

研 修 名	実施時期	会 場	参加者
救急法指導員研修会	3月16日※	防長苑	救急法指導員 118名
救急法指導員研修会 (前回欠席者及び職員指導員対象)	①6月15日 ②7月6日	山口県赤十字血液センター	救急法指導員 ①25名 ②14名
水上安全法指導員研修会	①4月16日 ②6月19日 ～21日	①日赤山口県支部 ②きらら博プール	水上安全法 指導員 ①19名 ②7名
幼児安全法指導員研修会	4月14日	パルトピアやまぐち	幼児安全法 指導員 44名
健康生活支援講習指導員研修会	4月14日		健康生活 支援講習 指導員20名

※救急法講習会の内容に大幅な改定があり、新講習を平成31年4月1日から開始することから、救急法指導員研修会については前年度に開催しました。

【水上安全法指導員Ⅱ養成講習】岡山県・鳥取県で実施され、2名が参加しました。

プログラム	日 程
事前説明会・研修会	8月6日(金)
養成講習	岡山会場：9月14日(土)・15日(日)・16日(月祝) 鳥取会場：9月21日(土)・22日(日)
新任指導員研修会	2月28日(金)

### (3) 救急法競技大会の開催

ワールド・ファーストエイド・デー（世界救急法の日）の関連行事として、県民が日常生活における安全意識を高め、事故や災害時において相互に助け合い、行動できるようになることを目指して、救急法競技大会を開催しました。

日時 令和元年9月7日（土） 12時00分～16時00分  
 会場 山陽小野田市民体育館 参加者 64名（18チーム）  
 成績

総合優勝		こうりょうレディース	
心肺蘇生の部		応急手当の部	
優勝	チーム ZERO	優勝	こうりょうレディース
準優勝	こうりょうレディース	準優勝	ばばこんが
第3位	山口県鴻城A	第3位	山口県鴻城A

入賞商品や参加賞は、赤十字サポーターの西京銀行、丸久、三宅商事、コープやまぐち、澤田建設、ホテル西長門リゾート、宇部流通サービス、錦町農産加工から協賛いただきました。



### 3 青少年赤十字活動

次世代を担う青少年が、赤十字精神に基づいて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、加盟校の拡大を進めるとともに、指導体制の充実やメンバーの増強と資質の向上に努めました。

#### (1) 加盟園・校の拡大と活動の充実

##### ① 加盟の状況

区分	平成30年度	令和元年度	増減	(参考) 令和元年度 JRC加盟率
幼稚園	16園	16園	－	26.9%
保育園	2園	2園	－	
小学校	74校	76校	+2校	19.7%
中学校	28校	28校	－	50.7%
高等学校	38校	37校	－1校	8.3%
特別支援学校	1校	1校	－	
全体	159園・校	160園・校	+1校	27.8%

※加盟率は、山口県内の学校数（2019年度山口県教職員録より）を分母として算出

##### ② 活動助成

県下の加盟園・校が青少年赤十字の実践目標「健康・安全、奉仕、国際理解・親善」及び態度目標「気づき、考え、実行する」に基づく学校単位で行う地域活動・研修等に対して、開催経費の一部助成を行いました。

#### 【令和元年度の助成状況】

区 分	助成件数	助成金額
幼稚園・保育園	3件	40,000円
小学校	50件	940,000円
中学校	7件	140,000円
高等学校	25件	310,000円
計	85件	1,430,000円

※活動内容は、宿泊学習等のリーダー研修や地域清掃・環境美化活動等の奉仕活動、地域での交流活動等となります。

※活動する児童・生徒数により上限3万円までの金額

#### (2) 指導体制の充実

県教育委員会や加盟園・校の指導者で組織する指導者協議会の支援を得て、今後の活動充実と活性化を図るための協議・研修を行いました。

また、日赤本社が主催する協議会・研究会、他県支部主催の研修会に指導者を派遣しました。

会議・研修名	実施時期	会 場	参加者数
青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会	5月24日 ～26日	国立オリンピック記念 青少年総合センター	3人
山口県青少年赤十字高等学校指導者協議会校長会	6月7日	ホテルかめ福	30人
山口県青少年赤十字幼保・小・中学校指導者協議会園長・校長会	6月14日	カリエンテ山口	82人
青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	6月24日 ～25日	日赤本社	2人
広島県青少年赤十字指導者研修会	7月6日 ～7日	日赤広島県支部	1人
第5ブロック青少年赤十字指導者協議会長並びに事務担当者会議	10月17日 ～18日	日赤愛媛県支部	3人
青少年赤十字指導者中央講習会	11月23日	日赤本社	3人
青少年赤十字研究会	1月9日	日赤本社	1人
山口県青少年赤十字指導者研修会	2月21日	パルトピアやまぐち	44人
合 計		9回	169人

### (3) メンバーの増強と資質の向上

#### ① リーダーシップ・トレーニング・センターの実施

各学校や地域における青少年赤十字活動の中核となる児童・生徒のリーダー養成研修を行いました。高等学校では、県を4地区に分け、その地区ごとに企画される地区トレーニング・センターを実施しました。

研修名	実施時期	会 場	参加者数
高等学校中部地区リーダーシップ・トレーニング・センター	6月8日	山口県立 防府西高等学校	中部地区 メンバー71人 指導者 13人
高等学校東部地区リーダーシップ・トレーニング・センター	7月27日	下松市地域交流 センター	東部地区 メンバー52人 指導者 12人
高等学校南部地区リーダーシップ・トレーニング・センター	8月19日	宇部市総合 福祉会館	南部地区 メンバー47人 指導者 10人
高等学校西部地区リーダーシップ・トレーニング・センター	8月9日 10月27日	下関市立青年の家 県立長府高等学校	西部地区 メンバー54人 指導者 7人
高等学校リーダーシップ・トレーニング・センター	8月4日 ～5日	山口県十種ヶ峰 青少年自然の家	メンバー16人 指導者 12人
小学校リーダーシップ・トレーニング・センター	8月19日 ～21日	山口県十種ヶ峰 青少年自然の家	メンバー32人 指導者 15人
中学校リーダーシップ・トレーニング・センター	11月2日 ～3日	カリエンテ山口	メンバー22人 指導者 11人
スタディー・センター (中止)	3月22日 ～26日	山梨県 東照館	新型コロナウイルス 感染拡大防止の ため中止
合 計		7回	374人



小学校



中学校



高等学校

## ② 加盟園・校メンバーの活動

### (ア) 幼稚園・保育園・小学校・中学校

県下各園・校において、募金活動、清掃活動、野外活動、宿泊学習、世代間交流など、年間を通して様々な活動を実施しました。



街頭募金



清掃活動



野外活動



癒しのハンドマッサージ

(イ) 高等学校

高等学校では、県下加盟校全体で組織する協議会を中心に活動の企画・協議が行われ、今年度の全体テーマを「愛～できることから始めよう～」とし、学校の枠を超えた交流学習・活動を行いました。

【高等学校メンバーの活動】

活動内容	実施時期	会 場	対象・人数
世界赤十字デー県下一斉ボランティア・サービス (清掃、環境美化、福祉施設訪問活動)	5月8日を 中心とした 時期	県下加盟高校校区等	高校生徒 ・指導者 32校 1,036人
山口県高等学校 青少年赤十字学習交流会	8月17日	カリエンテ山口	高校生徒 ・指導者 80人
山口県高等学校 青少年赤十字協議会総会	9月14日	パルトピアやまぐち	高校生徒 ・指導者 78人



県下一斉ボランティア・サービス



山口県高等学校青少年赤十字学習交流会

③ 赤十字講習・プログラム活用の推進

未来を担う子どもたちに、防災教育プログラムや健康・安全のための講習会、専門職員による出前授業を行いました。

【講習会】（再掲※）

講習内容	回 数	人 数 (対象:児童・生徒、保護者、教職員等)
救急法	26回	865人
水上安全法	2回	118人
健康生活支援講習	1回	24人
防災講習	8回	758人
合 計	37回	1,765人

※P 8. (10) ③教育現場における防災教育プログラムおよびP 9. (1) 各種講習の実施の再掲 (JRC 加盟校分)

## 【出前授業】

講習内容	回数	人数 (対象:児童)
「いのち」の大切さについて (血液センター職員講話)	1回	57人

### (4) 国際交流事業

国際理解・親善を実践する活動の一つとして、平成28年度から開始した、大韓民国蔚山広域市支社との青少年赤十字メンバーの交流事業は、小学生を対象に実施する予定でしたが、日韓関係の影響でやむなく中止しました。

## 4 国際活動

日本赤十字社は、国際赤十字の有力な一員として、赤十字国際委員会及び赤十字・赤新月社連盟の要請により、地域紛争や自然災害による犠牲者を救援するため、医療要員の派遣を始めとして、医薬品や食料等の救援物資を送るなど、さまざまな救援活動を行っています。令和元年度は、国際保健要員の派遣、発展途上国における保健衛生事業への援助、地域紛争や被災国を支援するための救援金募集等を行いました。

### (1) 国際保健要員の海外派遣

隣国のシリア危機により60万人を超える難民を受け入れ、財政や経済・社会インフラが寸断されたヨルダンにおいて、難民や満足な医療サービスを受けることが難しくなった地域の住民を対象に、ヨルダン赤新月社が実施している「地域住民参加型保健事業（基本的な健康・衛生状態の改善）」を支援するため、国際赤十字・赤新月社連盟から要請を受け、山口赤十字病院の看護師1名を派遣しました。

派遣職員	三戸 道江 (山口赤十字病院 看護師)
派遣先	ヨルダン・ハシミテ王国
派遣期間	令和元年10月3日～令和2年3月17日 (約6か月)
活動内容	ヨルダン赤新月社が実施する、難民や地域住民に対する健康維持・増進や応急処置等の保健事業に関する管理支援。 2月中旬からは、新型コロナウイルスに対応するため、WHOを交えた合同WEB会議に出席し、感染拡大防止や差別や偏見を抑制するための計画を立案。



現地の小学校で保健衛生教育を実施し、衛生用品(石鹸等)を配布している様子



現地での三戸看護師(前列右)、ヨルダン赤新月社職員(後列右)・ボランティア(前列左)、赤十字国際委員会職員(後列左から3人)

(2) 発展途上国開発援助（アジア・大洋州「給水・衛生」キット支援事業）

中国・四国各県支部との共同事業として、洪水やサイクロンなどの災害に対し、現地で給水・衛生活動が展開できるよう、「給水・衛生キット」の開発・配備に対して継続的な資金援助を行いました。

【助成金額】

平成30年度	令和元年度	前年対比
749,236円	757,682円	101.1%

(3) 海外救援金の募集

① NHK海外たすけあい

1983年から日本赤十字社とNHKが共同で実施している募金キャンペーンで、海外の紛争や災害等で苦しんでいる人々を支援するために、今年度も12月1日から25日の間、募金の受付を行いました。

【受付件数および受付金額】

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
総 額	件数	1,529 件	1,808 件	2,306 件	1,618 件
	金額	5,687,141 円	5,907,215 円	6,505,425 円	6,312,885 円
内 訳	募金箱	件数	965 件	1,235 件	966 件
	街頭募金等	金額	841,439 円	810,149 円	789,682 円
内 訳	ダイレクト	件数	564 件	573 件	1,340 件
	メール	金額	4,845,702 円	5,097,066 円	5,715,743 円

② その他の救援金

世界各国の赤十字社・赤新月社を通じて被災国の赤十字社に寄せられる「海外救援金」は、被災国の赤十字社が行う被災者支援活動に役立てられます。平成30年度も被災国の赤十字社からの依頼に基づいた救援金を募集しました。

救 援 金 区 分	件数	金 額
バングラデシュ南部避難民救援金	5 件	4,927円
中東人道危機救援金	2 件	20円
無指定	2 件	40,000円
合 計	9 件	44,947円

## 5 赤十字奉仕団による活動

赤十字奉仕団は、赤十字の理念である人道的な諸活動を実践するため、地域や活動の分野ごとに結成されたボランティア組織であり、その活動は、赤十字運動の普及にかかせないものです。

当支部では、奉仕団相互の連携強化を図るとともに、活動の中心となるボランティアリーダーを育成し、活動の充実に向けた体制強化を図りました。

また、各奉仕団がそれぞれ円滑な活動を展開できるよう、情報交換や連絡調整を図るための会議や各種研修会等を開催しました。

### 【山口県の奉仕団結成状況】

奉仕団の種類		団数	団員（登録者）数	特 色
地域奉仕団		43 団	8,894 人	主として、市町の婦人会組織等。一定の地域ごとに結成され、赤十字の思想普及、活動資金募集、災害時の救護活動支援等、地域に密着した活動を行っている。
青年（学生）奉仕団		3 団	67 人	青年や学生で組織され、献血推進や社会福祉施設の訪問等の活動を行っている。
特殊奉仕団	安全奉仕団	1 団	151 人	救急法・水上安全法・幼児安全法の指導員で結成され、県民の健康と安全を守るための講習会の指導を行っている。
	アマチュア無線奉仕団	1 団	91 人	アマチュア無線免許保有者で結成され、非常災害時において通信網を確保し、正確かつ迅速な情報の収集と伝達を行うことを目的に活動している。
	青少年赤十字賛助奉仕団	1 団	45 人	青少年赤十字活動の普及や加盟促進を目的に活動しており、青少年赤十字の指導経験者や、目標に賛同された方で組織されている。
	災害救護奉仕団	2 団	119 人	災害時に赤十字が実施する救護活動に協力することや、平時に防災思想の普及を図ることを目的に組織されている。
合 計		51 団	9,367 人	

### （1）赤十字奉仕団相互の連携強化

#### ① 赤十字奉仕団支部委員会の開催

地域奉仕団、青年（学生）奉仕団、専門技能を持つ特殊奉仕団の委員長で構成される赤十字奉仕団支部委員会を開催し、情報交換や相互の連携強化に向けて意見交換を行いました。

名 称	実施時期	会 場	参加者
赤十字奉仕団山口県支部委員会	5 月 15 日	カリエンテ山口	地域・特殊奉仕団委員長 6 人

#### ② 赤十字奉仕団相互の連携強化

赤十字事業を県内全域へと広げるため、地域と密着した活動をしている地域奉仕団を中心に、青年（学生）奉仕団、専門技能を持つ特殊奉仕団の連携を促進しました。

【奉仕団別の連携事業】

奉仕団名	地域奉仕団との連携事業
青年（学生）奉仕団	献血推進や社会福祉施設の訪問
安全奉仕団	県内全域での救急法等講習会指導・受講促進
アマチュア無線奉仕団	通信訓練及び県・市町防災訓練への参加
青少年赤十字賛助奉仕団	JRC未加盟校への加盟促進
災害救護奉仕団	県内全域での防災講習会指導・防災減災意識の向上

(2) ボランティアリーダーの育成

各奉仕団の中からボランティア活動の中心となるボランティアリーダーを育成し、活動の更なる充実・拡大を図りました。

○全奉仕団

研修名	実施時期	会場	参加者数
赤十字ボランティア・リーダー研修会	8月25日～27日	東京都国立オリンピックセンター	1人

○地域奉仕団

研修名	実施時期	会場	参加者数
山口県赤十字奉仕団中堅団員研修会	10月8日	カリエンテ山口	68人
中国・四国ブロック赤十字奉仕団研修会	11月14日～15日	松江ニューアーバンホテル	2人

○青年（学生）奉仕団

研修名	実施時期	会場	参加者数
山口県青年（学生）赤十字奉仕団リーダー研修会	2月10日	日赤山口県支部	13人



山口県赤十字奉仕団中堅団員研修会



山口県青年（学生）赤十字奉仕団リーダー研修会

(3) 会議・研修会等の開催および各奉仕団の活動

○地域奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
山口県赤十字奉仕団委員長会議	5月15日	カリエンテ山口	地域奉仕団委員長・地区・分区担当者63人

地域奉仕団では、主な活動として、5月の赤十字運動月間に合わせ、毎年県下一斉ボランティアを実施しています。令和元年度は30を超える奉仕団が活動し、赤十字エプロンやワッペン、奉仕団旗を掲げながら、地域の清掃や炊き出し訓練を行いました。



#### ○青年（学生）奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
中国・四国ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会	6月1日 ～2日	道後友輪荘	5人
山口大学学生 赤十字奉仕団年末総会	12月27日	山口大学会館	26人
山口大学学生 赤十字奉仕団新年総会	1月15日	山口大学共通教育棟 23番教室	23人
研修名	実施時期	会場	参加者数
中国・四国ブロック青年赤十字 奉仕団研修会	8月23日 ～25日	鳥取市サイクリング ターミナル砂丘の家	4人

今年度は、献血時やイベント等献血推進の協力や、高齢者福祉施設への訪問、海外たすけあい募金をはじめとした活動を行いました。



#### ○安全奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者
山口県赤十字安全奉仕団総会	3月16日	防長苑	112人
山口県赤十字安全奉仕団役員会	2月15日	日赤山口県支部	13人

※救急法講習会の内容に大幅な改定があり、新講習を平成31年4月1日から開始することから、安全奉仕団総会については前年度に開催しました。

#### 各講習会における安全奉仕団員の協力回数

講習区分	講習回数（団員協力／全講習数）	協力団員（実人数）
救急法	227回／332回	96人
水上安全法	9回／10回	18人
健康生活支援講習	6回／15回	2人
幼児安全法	15回／23回	13人

○アマチュア無線奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者
山口県赤十字アマチュア無線奉仕団総会	4月14日	日赤山口県支部	30人
研 修 名及びクラブ局運用	実施時期	会 場	参加者数
山口県赤十字アマチュア無線奉仕団 研修会	4月14日	日赤山口県支部	25人
第1回クラブ局運用	6月9日	いわくに消防 防災センター	6人

そのほか、全国の赤十字アマチュア無線奉仕団との通信訓練を、19回行いました。



○青少年赤十字賛助奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者数
全国青少年赤十字賛助奉仕団 協議会総会	7月9日 ～10日	日赤本社	1人
山口県青少年赤十字賛助奉仕団総会	9月9日	日赤山口県支部	14人
中国・四国ブロック青少年赤十字賛助奉 仕団連絡協議会・研修会	10月10日 ～11日	ザ・グランドパレ ス徳島 ほか	3人

赤十字思想普及のため、赤十字・青少年赤十字のシンボルツリー「イトスギ」の苗を育て、植樹する活動は、5年目を迎えました。

今年度は、山口県支部「赤十字サポーター」である澤田建設株式会社に植樹を行いました。この植樹を含め、これまで、50本の植樹を行いました。



○災害救護奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者数
山口県赤十字防災奉仕団総会	4月13日	日赤山口県支部	33人

研修名	実施時期	会場	参加者数
山口県赤十字防災奉仕団 研修会	4月13日	日赤山口県支部	33人
防災教育指導者養成研修会	7月26日 ～28日	日赤本社	1人
	8月24日 ～25日	日赤広島県支部	(職員) 1人
防災教育事業指導者 フォローアップ研修	9月28日	日赤本社	1人

今年度は、県内各地の防災講習に13回のべ22人の団員の協力をいただきました。



## 6 赤十字思想の普及

日本赤十字社では、赤十字の普遍的な使命である人道的任務を達成するため、多くの人びとの温かい思いを結集して赤十字運動を推進しています。

当支部では、赤十字思想に賛同いただける会員を募集するために、赤十字活動の大切さを県民の皆様に広く周知するなど、様々な広報活動を行いました。

### (1) 赤十字会員の募集

赤十字の会員とは、日本赤十字社の目的に賛同し、支援して下さる方のことです。会員には、会費として年額2,000円以上の協力をいただく「会員」と、500円を目安に協力いただく「協力会員」があり、個人・法人を問わず、どなたでも加入することができます。

日本赤十字社の活動は、支援して下さる会員によって支えられているため、一人でも多くの方に会員になっていただけるようお願いしています。

### 【会員の推移（協力会員除く）】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
個人会員	552人	735人	797人
法人会員	1,530社	1,500社	1,498社
会員合計	2,082人・社	2,235人・社	2,295人・社

### (2) 赤十字運動月間キャンペーン

5月1日の創立記念日、5月8日の「世界赤十字デー」にちなんで、毎年5月を『赤十字運動月間』として、全国各地で国民の皆さまに赤十字活動の報告や継続的な協力をお願いしています。

当支部では、5月の赤十字運動月間での会員増強に向けて、4月に地区分区の協賛委

員会等に職員が出席し、赤十字事業の必要性を説明することで、活動資金および会員募集の促進を図りました。また、レッド・ライトアップ・プロジェクトやイベントを実施するとともに、県内のテレビ・ラジオでのCM放映や、新聞広告などにより、日赤の活動をPRしました。

① レッド・ライトアップ・プロジェクト

多くの人々に「人道の大切さ」について考え、理解を深めていただくきっかけとして、5月の赤十字運動月間に各地の公共・民間施設を赤色に灯す運動を平成28年度から全国一斉に実施しています。

4年目となる今年度も、夜空に浮かぶ赤十字色の灯りが、過去の震災や被災地で苦しんでいる人を「忘れない、風化させない」という想いにつながることを願って、県内の2施設に協力をいただき、世界赤十字デー（5月8日）を中心とした期間にライトアップを実施しました。

【ライトアップ実施施設】

協力先	場 所	期 間
山口県国際総合センター	海峡ゆめタワー	令和元年5月7日～9日
三宅商事	三宅商事本社ビル	令和元年5月1日～31日



② イベントの開催

地域の皆様に、赤十字事業への理解・協力を促すため、支部と小野田赤十字病院、血液センターの3施設で合同イベントを実施しました。

イベント名	実施時期	場 所	内 容
一日赤十字と看護の日 ふれあいフェスタ2019	5月12日	おのだサンパーク	親子で救急法体験、防災パネル掲示、非常食炊き出し体験、赤十字なりきり救護員制服記念撮影会、各種身体測定ほか



小野田赤十字病院による各種身体測定



非常食炊き出し体験

### ③ マスメディアによるPR

赤十字運動月間を広く県民に周知し支援をお願いするため、テレビやラジオ、新聞による広報を実施しました。また、今年度からは、新たに各地域のケーブルテレビ局やエフエム局にも協力いただき、さらなる周知を図りました。

#### 【テレビ・ラジオ】

◆民放テレビ：山口放送、テレビ山口、山口朝日放送

◆ケーブルテレビ

- ・アイキャン（岩国・和木・周防大島）、周防ケーブルネット（柳井）、
- ・Kビジョン（下松・光・平生・上関）、シティーケーブル周南（周南）、
- ・山口ケーブルテレビ（山口・防府・美祢）、Jコム下関（下関）、
- ・萩ケーブル（萩）、ほっちゃTV（長門）

《内容》15秒CM、職員出演によるPR等

◆ラジオ：FM山口、山口放送、エフエム下関

《内容》20秒CM、職員出演によるPR等

#### 【新聞広告】

山口新聞、中国新聞

### （3）広報活動

#### ① 広報資材の作成・配布

県内全域へ赤十字事業・活動を報告するため、広報誌を年2回発行しました。また、個別事業の報告のためのパンフレットを発行し、関係者および協力先へ配布しました。

広報資材名	発行時期	発行部数	配布・設置先
赤十字やまぐち2019秋号	令和元年10月	355,000部	各地区分区（原則各戸配布）、 講習受講者、 赤十字サポーター 他
赤十字やまぐち2020春号	令和2年3月	431,000部	
JRCトピック	令和2年3月	1,000部	JRC加盟校他
奉仕団だより	令和元年8月	400部	奉仕団員、各地区分区

② マスメディアを通じた情報発信

県内における赤十字活動を広く県民に知ってもらうため、プレスリリースを発売してテレビ局や新聞社からの取材を促進し、報道へと繋げました。

【報道件数】

テレビ	新聞
14 件	53 件

③ ホームページ・SNSによる情報発信

主に若年層の支持者を増やすために、引き続きホームページとフェイスブックで写真や動画を活用した目に見える活動報告を行いました。

④ イベントの開催・出展

地域の皆様に、赤十字事業への理解・協力を促すため、イベントを実施しました。

イベント名	実施時期	場 所	内 容
湯田地区 ふれあいフェスタ	9月29日	湯田小学校	防災パネル・救援物資の展示、 防災講和
みすみふれあいまつり	10月20日	三隅農業者トレーニングセンター	救援物資の展示、活動資金の 受付
大殿地区 安心・安全のつどい	11月10日	大殿地域 交流センター	防災パネル掲示、赤十字なり きり救護員制服記念撮影会
赤十字ふれあい ミニフェスタ2019	11月16日	献血ルームForYou	赤十字なりきり救護員制服記 念撮影会、防災クイズ、防 災・減災啓発パネルおよび救 援物資の展示



(4) 企業・団体とのタイアップによるCSR活動の普及

① 赤十字サポーター

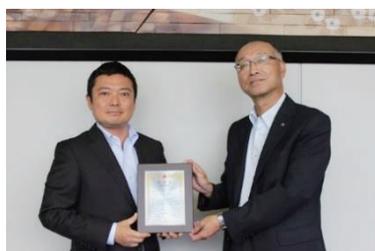
平成25年度から実施している赤十字サポーター制度では、法人のCSR活動を促進するために、赤十字活動資金への継続的な支援と、企業・団体の事業内容に沿った赤十字事業への協力という要件を満たした企業・団体を、赤十字サポーターとして認定しています。令和元年度は10法人を認定し、合計で21法人となり、目標の20法人を達成しました。

【令和元年度赤十字サポーター認定法人】

社名	所在地	認定日	支援協力内容
錦町農産加工	岩国市	R1. 6. 1	赤十字支援マーク付商品の販売収益の一部寄付、保有施設での赤十字広報協力
本瀬商会	宇部市	R1. 7. 1	赤十字活動資金の寄付、保有施設での赤十字広報協力
サビエルカンパーナ	山口市	R1. 7. 1	赤十字活動資金募金箱設置、保有施設での赤十字広報協力
トヨタ部品山口共販	山口市	R1. 8. 1	寄付つき自動販売機の設置、保有施設での赤十字広報協力
富士高圧 フレキシブルホース	光市	R1. 9. 1	寄付つき自動販売機の設置、保有施設での赤十字広報協力
シマヤ	周南市	R1. 9. 1	寄付つき自動販売機の設置、保有施設での赤十字広報協力
防長交通	周南市	R1.11. 1	バス車両等での赤十字広報協力
徳山興産	周南市	R1.12. 1	寄付つき自動販売機の設置、保有施設での赤十字広報協力
積水ハウスグループ	山口市	R1.12. 1	赤十字活動資金の寄付、保有施設での赤十字広報協力
ヤマウチ	山口市	R2. 2. 1	寄付つき自動販売機の設置



富士高圧フレキシブルホース



シマヤ



防長交通



徳山興産



積水ハウスグループ



ヤマウチ

- ② レノファ山口とのパートナーシップ協定に基づく取組の充実  
平成28年3月に締結したパートナーシップ協定の内容に基づき、令和元年度は以下の相互協力を行いました。

【赤十字⇒レノファ】

実施項目	実施時期	備考（会場・内容等）
ホームゲーム救護所要員としてのボランティア救護員の派遣（各試合3名・19試合）	4～11月	山口維新百年記念公園陸上競技場 および下関市陸上競技場 赤十字病院の看護師等（延べ56人）
救急法講習会の実施	2月2日	レノファ山口FCのボランティア団体「TeamBONDS」への救急法講習実施
広報協力	適時	保有施設でポスター等の掲示

【レノファ⇒赤十字】

実施項目	実施時期	備考（会場・内容等）
献血イベントの実施	年2回	ホームゲームへの献血バス配車
広報協力	適時	保有施設でポスター等の掲示



TeamBONDSの救急法講習会

(5) 表彰

活動資金の協力や赤十字事業の進展に尽くされた方に表彰を行いました。

表彰区分		表彰基準	個人 (人)	法人 (社/団体)	合計	
活動資金	社長感謝状	金色有功章受章後 (累計) 50万円以上	4	6	10	
	有功章	金色	(累計) 50万円以上	6	4	10
		銀色	(累計) 20万円以上	8	49	57
	支部長表彰状 支部長感謝状		(累計) 10万円以上	15	50	65
	特別社員章		(累計) 2万円以上	29	62	91
小計			62	171	233	
献血者	有功章	金色	献血回数100回以上	82		82
		銀色	献血回数 70回以上	126		126
	小計			208		208
合計			270	171	441	

## ○表彰伝達式

社長感謝状及び金色有功章の受章者の方には、支部長から賞状や有功章を伝達しました。

(日程) 令和2年2月3日(月)

(会場) ホテルニュータナカ



## 7 赤十字活動資金の確保

日赤では、独立採算となる医療事業・血液事業以外は、全て県民の皆様からお寄せいただく活動資金を財源に、災害救護をはじめ国際活動、救急法等の講習普及、青少年赤十字の育成、赤十字ボランティア活動の促進等、多岐にわたる事業を実施しています。

### (1) 令和元年度の活動資金募集実績

活動資金については、少子高齢化が加速し、地域社会が変容していく中、近年減少傾向が続いておりましたが、令和元年度は、多額の相続財産寄付を受け付けたことや、地区・分区や奉仕団関係者をはじめとする県民の皆様のご協力により、3年ぶりに2億円を超え、目標を達成することができました。

しかしながら、今年度は、新型コロナウイルスの影響により経済環境が急速に悪化し、非常に厳しい経済情勢が続くことが見込まれており、活動資金の減少が強く懸念されることから、引き続き活動資金の確保対策が必要です。

### 【令和元年度の活動資金募集状況】

区 分	令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績	前年対比
一 般 (相続財産寄付除く)	209,000千円	246,095千円 (186,095千円)	176,307千円	139.8% (105.6%)
法 人	20,000千円	23,154千円	19,478千円	118.9%
合 計 (相続財産寄付除く)	229,000千円	269,248千円 (209,248千円)	195,785千円	137.5% (106.9%)

### (2) 一般対策

#### ① 地区分区との連携

赤十字運動月間での募集に先立って、地区分区で開催される協賛委員会や自治会長集會等へ支部職員や地区分区担当職員が出席し、毎年の協力に対する感謝を伝えるとともに、赤十字事業の必要性を説明して募集活動への協力をお願いしました。

### 【地区分区の協賛委員会議等】

行 事 名	開 催 時 期
日本赤十字社下関市地区代表協賛委員・分区長合同会議	平成31年4月5日
日本赤十字社山陽小野田市協賛委員会	平成31年4月17日

行 事 名	開 催 時 期
日赤光市地区分区長会議	平成31年4月18日
日本赤十字社下松市地区協賛委員会	平成31年4月23日
日本赤十字社防府市地区協賛委員会春季定期総会	平成31年4月24日
自治会長集会（下関市・山口市）	平成31年4月
日本赤十字社宇部市地区協賛委員会	令和2年2月25日

② 広報誌を活用した募集

赤十字やまぐち2019秋号において、平成30年度同様、振込用紙を付けて発行・配布したところ、200件を超える応諾がありました。

【応諾実績】

年度	件数	金額
平成30年度	105 件	2,079,862 円
令和元年度	215 件	3,274,108 円

(3) 法人対策

① ダイレクトメールによる募集

年3回発送（6月・9月・1月）のダイレクトメールにより、法人に対して活動資金の募集を行いました。

【募集状況】

		発送数	応諾数	応諾率	協力金額
継 続 分	6月発送分	3,628 件	938 件	25.9%	9,761,000 円
	9月発送分	669 件	140 件	20.9%	1,449,000 円
	1月発送分	263 件	61 件	23.2%	687,000 円
新 規 分		2,222 件	77 件	3.47%	1,136,254 円
合 計		6,782 件	1,216 件	17.9%	13,033,254 円

【継続分】

発送月	条 件
6 月	過去10年以内で1度でも納入のあった法人（3,628法人）
9 月	6月発送分の未応諾法人のうち、過去5年以内で活動資金に協力いただいている法人
1 月	6月、9月未応諾法人のうち、前年度に活動資金に協力いただいている法人

【新規分】

発送月	条 件
6 月	医療関連法人等（884件）
1 月	宗教法人等（1,338件）

② 訪問による募集

表彰対象法人及び年額5万円以上協力いただいた法人80社に対して、表彰品、受領書を直接お届けして感謝の意をお伝えするとともに、赤十字事業についての説明をさせていただき、今後のさらなる協力をお願いしました。

③ 赤十字サポーター制度の普及（再掲）

C S Rに積極的な企業・団体に対して、寄付つき商品の開発や自動販売機、募金箱の設置等をお願いし、赤十字サポーター制度の普及を推進しました。その結果、寄付つき商品1点の販売開始と自動販売機5台を設置していただくことができました。



(4) ブックオフグループと連携した寄付プログラムの実施

平成30年度から実施している「ボランティア宅本便プログラム」による寄付を受け付けました。

	平成30年度	令和元年度
寄付件数	6件	7件
寄付金額	46,496円	29,700円

(5) 多様な活動資金納入方法の周知

当支部では、窓口払いや銀行振り込み以外にも、口座振替やクレジットカード払い、コンビニ払い、ネット銀行決済等様々な協力方法を整えています。本年度も、広報誌やホームページ等で紹介し、活動資金への協力促進を図りました。

(6) 遺贈・相続による寄付の獲得

当支部が遺贈・相続財産による寄付受け入れ団体であることを周知するために、昨年度に続き、山口県日赤紺綬有功会の会員を主な対象として、行政書士による終活セミナーを開催し、50人を超える県民に受講いただきました。

また、地域への周知を促進するため、公証人と弁護士を講師として、岩国市と美祢市でも終活セミナーを開催し、併せて30人を超える方々に受講いただきました。

## 8 支部庁舎の改修

平成30年度から2か年計画で支部庁舎の耐震および一般改修工事を実施し、耐震補強と老朽化した内外装の改修に加えて、災害時救護指揮拠点として機能的な構造に改修するとともに、災害対策本部運営に必要な備品を追加整備しました。

事業費	令和元年度：106,465,006円 (総事業費：115,546,726円)
工事期間	平成30年2月～令和元年7月
工事内容	①耐震改修工事 ②一般改修工事（外装・内装） ③機能的な構造の追加 ・救護員のための設備を新設（シャワー室、仮眠室） ・会議室への災害対策本部機能を追加（電話回線、無線LAN、テレビ配線の追加）
備品の整備	・プロジェクター（天吊り式） ・長机、パイプ椅子

## 9 医療事業

医療機能の分化・連携、地域包括ケアシステムの構築など、医療・介護の制度改革に適切に対応し、県民ニーズに応じた地域医療の充実や災害時における医療提供体制の強化に努めました。

### (1) 山口赤十字病院

#### ① 病院機能の充実・強化

##### ア チーム医療の推進

N S T（栄養サポートチーム）やR S T（呼吸サポートチーム）、糖尿病透析予防指導、糖尿病合併管理などの既存の医療チームの活動の強化を図るとともに、新たなチーム医療の実施に積極的に取り組んでいます。また、糖尿病透析予防指導チームは山口市の糖尿病性腎症重症化予防事業にも参加しています。

令和元年度には臨床倫理コンサルテーションチームや転倒転落防止対策チーム、患者安全チームなど医療安全に関わるチームも設置しました。

##### イ 入退院支援機能の充実（訪問看護ステーションとの連携を含む）

入退院支援センターを核として入院患者の円滑な入・退院を支援するとともに、訪問看護ステーションなどと連携を図りながら、退院後もより安全なそして安定した在宅療養ができるように支援することで、地域包括ケアの一翼を担っています。

##### ウ リハビリテーション提供体制の拡充・強化

廃用症候群を予防し、早期のADL向上と社会復帰を図るために、十分なリスク管理のもとに発症後早期から積極的なリハビリテーションを実施しています。

##### エ 薬剤指導業務の充実（病棟薬剤師配置等）

医療の質の向上と医師等の業務負担軽減を目的に病棟への薬剤師の配置を進め、全病棟一定時間以上の薬剤師配置、病棟薬剤業務実施加算の維持及び薬剤管理指導件数の増加・質向上を図っています。また、手術室での業務拡大にも取り組んでいます。

##### オ 高度医療機器の共同利用の推進

医療機器の効率的活用による画像診断、生理機能検査への積極的対応及び検診業務との連携強化、適切・必要な検査による病態診断の向上を図るとともに、医療機器の有効活用や地域の医療機関の診断支援を行うために高度医療機器の共同利用を積極的に進めています。

##### カ 食事指導業務の充実

入院患者に対し病態に対応した安全で治療効果の上がる特別食の提供に努めています。疾病の予防・回復、健康の維持・増進に役立つ栄養指導を入院・外来患者に対し積極的に実施しています。

##### キ 特定行為研修を行う指定研修機関の指定

厚生労働省より特定行為（医師・歯科医師が予め作成した手順によりできる行為）が実施できる看護師を育成する機関として指定されています。

##### ク 医師事務作業補助者の増員

医師の負担軽減のため、医師事務作業補助者を増員しました（医師事務作業補助体制加算の施設基準 25対1→20対1（3月）の取得）。

##### ケ 事業継続計画（BCP）の策定

緊急事態時の対応力向上のため事業継続計画（BCP）策定しています。

コ カプセル内視鏡検査開始

小腸検査治療に精通した医師が赴任し、カプセル内視鏡を使用して患者さんの負担なく従来の内視鏡では届かない長い小腸の粘膜を観察できるようになりました。

サ 紛争犠牲者支援（再掲）

中東地域紛争犠牲者支援のため、10月から3月まで看護師をヨルダンへ派遣しました。

② 医療安全の推進

良質な医療サービスを提供する上での最重要課題である医療安全を確保するため、医療安全管理のための職員研修などに病院全体で取り組んでいます。また、チームとしての活動の充実や、地域における医療安全を進めるため、医療安全対策地域連携加算の施設基準を取得し活動しています。

③ 経営の安定化

ア 収益向上対策

地域医療連携の強化による紹介患者や救急患者の確保及び効果的なベッドコントロールなどを通じて新規入院患者の増加を目指しています。また、夜間看護体制加算（16対1）や病棟薬剤業務実施加算、地域医療支援病院入院診療加算に加え新たな加算取得の検討や効率性係数などDPCの各種係数アップ、既存の管理・指導料などの算定率向上対策に努め、診療単価のアップを目指していきます。さらに、未収金の発生を未然に防止するとともに、発生した未収金の早期回収に取り組むなど、債権額の的確な把握に努め、迅速に適切な対応を図っています。

イ 費用の適正化

経費節減に努め、材料費、委託料などの適正化を図り、各々の費用の医業収益に対する比率が現状以下に抑えられるようにするとともに、適正な職員配置により労働生産性の向上に努めています。また、患者負担の低減や経費の削減、さらにはDPC機能評価係数Ⅱの後発医薬品係数の維持を目指し、後発医薬品の採用を進めています。

ウ 経営管理機能の強化

各種経営情報の一元管理を行い、経営課題を抽出し、戦略的な業務運営を行います。また、経営管理機能の強化を図るため、パフォーマンス指標により経営課題ごとに対策と数値目標を定め、PDCAサイクルの進行管理による評価・改善に努めています。

④ 地域への貢献

ア 地域医療機関等との連携強化による紹介患者の確保と退院調整機能の強化

紹介患者の積極的な受入れや診療所への効果的な訪問などを行う地域連携体制の整備とともに、地域連携パスの運用強化や退院支援・退院調整機能の強化を図り、地域医療支援病院の地位を確立していきます。また、当院ホームページ内に登録医療機関紹介サイトを構築し連携を図っています。

イ 地域の医療機関との連携による高度医療機器等の有効活用

地域医療支援病院として、地域の医療機関の効果的な診断を支援するため、当院の高度医療機器等の共同利用を進めていきます。

ウ 地域の医療従事者の資質向上支援

地域医療支援病院として、地域の医療従事者の資質向上を支援するため、当院において地域医療従事者向け研修会を計画的に開催しています。

エ 広報の充実、マーケティング活動の展開、患者満足度の向上

平成25年3月に採用したマスコットキャラクターの活用も図りながら、知っちょる会における市民講座の開催や体験学習など、地域との触れ合い活動を推進しています。

また、将来の日本の医療を支える、医療者を目指すきっかけづくりとなるよう、高校生を対象とした「ブラックジャックセミナー」（外科手術体験セミナー）を8月4日（日）に開催し、近隣7校より33名の参加がありました。

・第17回知っちょる会 11月2日（土）

ひぎの健康セミナーを山口健康福祉センターで開催

・出張知っちょる会「赤十字健康生活支援講座」

日付	会場
5月16日（木）	大殿地域交流センター
6月13日（木）	鑄銭司河原自治会館
6月17日（月）	小郡新町東公民館
8月6日（火）	仁保原河内集会所
10月31日（木）	大内下矢田公民館
11月26日（火）	柚野分館
2月18日（火）	大内地域交流センター

また、地域の先生と当院をつなぐ冊子「やまクロcross」の定期的な発行や定期訪問を継続して行っています。

オ 平成22年より院内に開設している山口こども急病センターに防府市も参入することとなり、令和2年2月より山口・防府こども急病センターとして改編し、山口市のみならず防府市からの小児救急の受け入れを開始しました。

(2) 小野田赤十字病院

① 診療機能等の強化（医療機器等の更新）

ア 薬剤管理機能とリスクマネジメントの向上により患者サービスの充実を図るため、全自動錠剤分包機と全自動散薬分包機を併せた薬剤業務支援システムを更新しました。

イ 働き方改革を推進し、労働時間の削減と労働環境の改善を図り、適正な勤怠管理を行うため、就業管理システムを整備しました。

ウ リハビリにより機能回復を図るとともに、在宅復帰を促進するため、歩行練習用階段を更新しました。

エ 食材の適切な温度・時間管理を図るとともに、調理員の負担軽減のため、ブラストチラー（急速冷却機）を購入しました。

オ 老健でも重症化したり、終末期を迎えた入所者に対応できるよう、個室に医療ガス配管工事を行いました。

カ 老健のダイケアの拡充と利用者サービス向上のため、車椅子対応送迎車を更新しました。

② 医療安全の向上

ア 医療安全の意識の向上を図るため、インシデント・アクシデントレポートの集計と分析を委員会や会議で毎月報告し、職員に伝達するとともにレベル3 a以上の評

価を1か月後に各部署で行っています。また、医療安全ニュースの発行やレベル0報告についても情報共有できるように努めました。

イ 医療安全意識と安全文化の醸成を図るため、5S活動を各部署で取り組みました。医療安全マニュアル見直しをしてきましたが、まだ不足があり次年度に向けてもマニュアルの改訂見直しを行っていきます。医療安全研修は複数回実施やビデオ研修を取り入れ出席率を上げるよう努めました。

ウ 医療安全推進週間では、緊急時対応訓練を看護・コメディカル共同で実施し、院内救急コールも訓練放送をしました。他に外来患者向けに、「インフルエンザ」「肺炎ワクチン」のパンフレットを作成し配布しました。各部署ではポスターの掲示や部署別研修を行うとともに、5S活動強化に向けた院内ラウンドを行いました。

エ 院内感染防止のため、感染報告を医療安全管理者が取りまとめ感染対策委員会と共に行動しています。令和元年度は一部署からノロウイルス感染があり、臨時感染対策委員会を開催。また、部署の協議にも参加し感染拡大防止に努め、アウトブレイクまでは至りませんでした。

### ③ 経営の安定化

#### ア 病院機能の転換と強化

救急告示病院としての役割は果たしつつも、地域包括ケアシステムの中核施設として在宅復帰に寄与できる機能を強化し、市内の他の急性期病院との機能分化を図る観点から、令和2年3月に急性期病床を全て地域包括ケア病床に転換し、1病棟(40床)は地域包括ケア病棟となりました。これにより入院料収入の安定とベッドコントロールの効率化が期待できます。また、在宅復帰への流れを補完し、定着させるため、令和元年6月に訪問看護ステーションを設置し着実に実績を上げています。さらに、介護療養病床を介護医療院に転換する準備が計画どおり進んだことから、令和2年4月に日赤グループ初となる介護医療院を12床で開設いたします。また、病院の質を高め、患者増につなげるため、職員が1年以上かけて準備した病院機能評価を2月に受審し、概ね高評価を得ることができました。

#### イ 収益向上に向けた加算・施設基準の取得

地域包括ケア病棟については、「地域包括ケア病棟入院料2」からの開始となりましたが、訪問看護件数の増を図るなど、より厳しい基準をクリアすることにより「地域包括ケア病棟入院料1」に格上げされるよう努力しています。また、平成30年度の診療報酬改定により、加算額が大幅に増加する一方で適用条件も大変厳しくなった療養病床在宅復帰機能強化加算を継続取得できました。さらに、老健あんじゅの在宅復帰・在宅療養支援機能の強化等に努め「加算型」を取得していますが、介護報酬額の更に高い「強化型」の取得を目指し、入所者の在宅復帰に向けて取り組んでいます。

#### ウ 経営健全化に向けた取組の推進

令和元年7月に本社から支援病院に指定されたため、病院機能の転換や訪問看護の実施など本社と協議しながら経営改善に取り組みました。また、令和2年度から4年度までの経営健全化計画を本社の指導の下で作成し、4月から計画の達成に向けて取り組むこととしています。

#### エ 入院患者の確保

地域の診療所を定期的に訪問し、当院の特長等をPRするとともに、空きベッドの情報を適時提供しています。また、診療所との連携を行う上での課題や対策を話し合う地域連携会議を開催しています。

④ 地域の行事への参加

地域の行事に対し、けがや傷病者救護のため看護師等を派遣しました。

- ・宇部市：原校区運動会・・・・・・・・・・看護師 2 名・主事 1 名
- ・クリーン作戦・・・・・・・・・・・・・・・・・・看護師 1 名
- ・山陽小野田市：須恵東運動会・・・・・・・・看護師 1 名・主事 1 名

⑤ 地域住民への P R ・ 啓発及び研修活動

ホームページや広報誌を充実し、当院の情報をより分かりやすく、より早く伝えていくこととしております。また、地域密着型病院として、地域住民に対して積極的な啓発活動等を行いました。

ア 納涼祭

8月に地域住民の皆様と病院の入院患者及び老人保健施設あんじゅの入所者のふれあいの場である納涼祭を開催しました。

また、当日のバザーの売り上げ（15,980円）は、支部を通じて「令和元年台風第19号災害義援金」に募金しました。

イ 「院長先生健康講座」等

日 付	会 場	日 付	会 場
5月14日（火）	須恵公民館	10月8日（火）	須恵公民館
5月23日（木）	本山公民館	11月28日（木）	本山公民館
7月9日（火）	須恵公民館	2月27日（木）	本山公民館
7月25日（木）	本山公民館		

ウ その他の行事等

5月に「一日赤十字と看護の日ふれあいフェスタ2019」を、おのだサンパークで行いました。（再掲）

11月に「第9回 介護の日」のイベントを開催し、認知症予防対策の講演、簡単にできる認知症予防体操、大正琴の演奏等を行いました。

(3) 本年度の診療状況

区 分		山口赤十字病院	小野田赤十字病院
病 床 数		427 床	132 床
外来患者数	延 べ 数	165,558 人	12,657 人
	一日平均	689.8 人	52.7 人
入院患者数	延 べ 数	126,735 人	44,543 人
	一日平均	346.3 人	121.7 人

## 10 看護師等の養成

将来、県内の赤十字施設で就業する意思がある看護師等の資格取得を目指す学生の就学支援を目的に、奨学金貸与制度を運用し、看護師等の養成を行っています。

## 11 血液事業

「血液事業」とは、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤（輸血用血液製剤と血漿分画製剤）として、治療を必要とする患者さんのため、医療機関に供給する一連の事業のことをいいます。この血液製剤は、健康な方々から自発的に無償で血液を提供いただく「献血」により作られており、わが国の血液事業は、「献血」によって支えられています。

日本赤十字社の血液事業は、全国54の血液センターと172の附属施設において運営されています。令和元年度には、山口県で50,310人から献血のご協力をいただき、その献血血液から製造された輸血用血液製剤57,494本を県内142医療機関にお届けいたしました。

### 1 献血状況

#### (1) 種別献血者数

種別		事業計画数	令和元年度 献血者数	30年度 献血者数	事業計画比 (%)	前年度比 (%)	前年度差 (人)
全血 献血	400mL 献血	40,707	41,767	40,563	102.6	103.0	1,204
	200mL 献血	518	603	494	116.4	122.1	109
成分 献血	血小板成分献血	4,200	3,825	4,215	91.1	90.7	▲ 390
	血漿成分献血	2,867	4,115	2,819	143.5	146.0	1,296
献血者数合計		48,292	50,310	48,091	104.2	104.6	2,219

ア 献血者数は、全血献血と成分献血を併せて50,310人で、事業計画比104.2%、前年度比104.6%、前年度より2,219人増加した。

イ 全血献血のうち、400mL 献血が41,767人で98.6%を占めており、事業計画比102.6%、前年度比103%、前年度より1,204人増加した。

ウ 成分献血のうち、血漿成分献血が4,115人で事業計画比143.5%、前年度比146%、前年度より1,296人と増えているが、これは、血漿分画製剤用の原料となる血漿確保のためである。

#### (2) 施設別献血者数

##### ① やまぐち献血ルーム「For you」

種別		事業計画数	令和元年度 献血者数	30年度 献血者数	事業計画比 (%)	前年度比 (%)	前年度差 (人)
全血 献血	400mL 献血	3,756	3,954	3,457	105.3	160.9	497
	200mL 献血	120	174	118	145.0	147.5	56
成分 献血	血小板成分献血	4,200	3,825	4,215	91.1	90.7	▲ 390
	血漿成分献血	2,867	4,115	2,819	143.5	146.0	1,296
献血者数合計		10,943	12,068	10,609	110.3	113.8	1,459
1日当たり献血者数		35.0	38.8	34.6			4.2

② 移動採血車（稼働台数：延べ728台）

種 別		事業 計画数	令和元年度 献血者数	30年度 献血者数	事業計画比 (%)	前年度比 (%)	前年度差 (人)
全 血 献 血	400mL 献血	36,951	37,813	37,106	102.3	101.9	707
	200mL 献血	398	429	376	107.8	114.1	53
献血者数合計		37,349	<u>38,242</u>	37,482	<u>102.4</u>	<u>102.0</u>	760
1稼働当り献血者数		53.6	<u>52.5</u>	52.8			▲0.3

ア やまぐち献血ルームの献血者数は、12,068人で事業計画比110.3%、前年度比113.8%、前年度より血漿成分献血者を中心に1,459人増加した。1日当りの献血者数は、38.8人となり前年度より4.2人と大幅に増えた。

イ 移動採血車での献血者数は、38,242人で事業計画比102.4%、前年度比102%、1稼働当りの献血者数も、52.5人とほぼ計画どおりの受入れが維持できている。

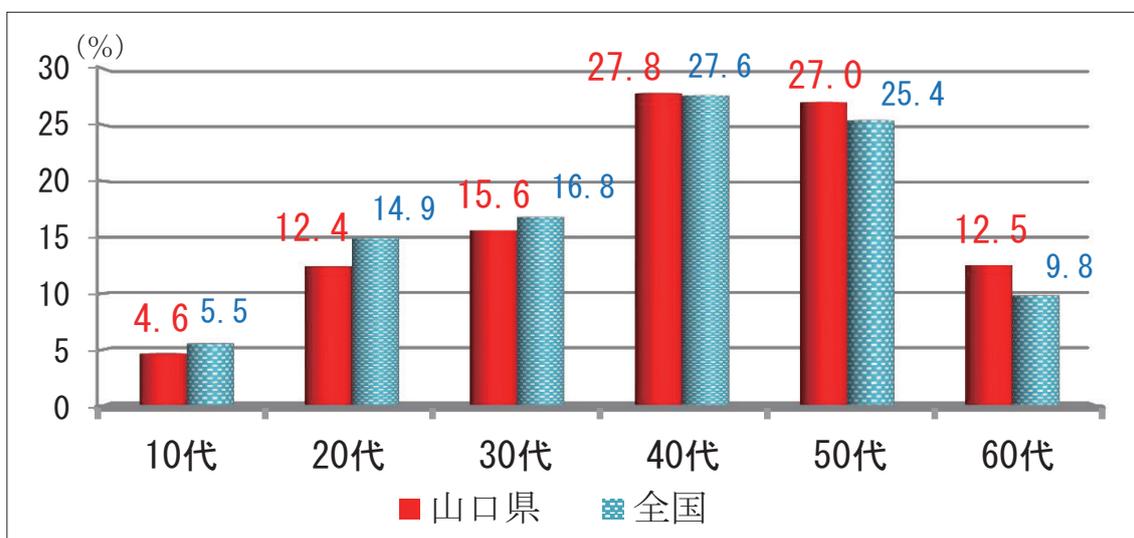
ウ 献血者数50,310人のうち、移動採血車での受入れが38,242人で76%、やまぐち献血ルームでの受入れが12,068人で24%を占めている。平成30年度のリニューアル以後、献血ルームの献血者数は順調に増加している。

(3) 若年層献血者状況

① 10代～30代献血者数

年代別	計画数	令和元年度 献血者数	30年度 献血者数	前年度差	前年度比	計画比
16歳～19歳	2,150	2,278	2,051	227	111.1	106.0
20歳～29歳	5,956	6,147	6,073	74	101.2	103.2
30歳～39歳	7,830	7,818	7,758	60	100.8	99.8
計	15,936	<u>16,243</u>	15,882	<u>361</u>	<u>102.3</u>	<u>101.9</u>

② 献血年代別構成比（平成31年1月～令和元年12月累計）



- ア 10代から30代の若年層の献血者は、16,243人で計画比101.9%、前年度比102.3%、前年度より361人増加した。10代は、前年度比111.1%で平成28年度（2016年度）より僅かながら年々増加傾向にある。
- イ 受入施設別にみると、移動採血車の配車回数は、大学・専門学校が43回（前年より2回増）、高校が14回（前年より2回減）と前年度並みの実施であり、若年層献血者数は、前年度とほぼ同数であった。  
やまぐち献血ルームは、前年度より386人増えており、10代から30代まですべての世代で上回った。特に山口大学で実施した移動採血車で献血経験者へSNS（ツイッター、インスタグラム）で献血ルームへの誘導を図った。
- ウ 年代別構成比は、10代から30代が全体の32.6%で、全国平均37.2%に比べ4.6ポイント低い現状にあり、更なる若年層献血者の確保が必要である。

## 2 輸血用血液製剤の供給状況

	令和元年度 供給本数	30年度 供給本数	前年度比 (%)	前年度差 (本数)
全血製剤	16	10	160.0	6
赤血球製剤	39,720	40,060	99.2	▲ 340
血漿製剤	9,540	10,475	91.1	▲ 935
血小板製剤	8,218	8,230	99.9	▲ 12
計	57,494	58,748	97.9	▲ 1,254

- ア 山口県における供給数は、平成29年度が前年度比103.7%、平成30年度が前年度比102%と微増傾向にあったが、令和元年度は前年度比97.9%と微減した。
- イ 赤血球製剤は前年度比99.2%、血小板製剤は前年度比99.9%とほぼ前年度並みの供給数であり、血漿交換によって需要が大きく変動する血漿製剤が前年度比91.1%と減少した。
- ウ 平成29年度に山口大学で生体肝移植手術が開始されこと、東部地区の医療機関に血液内科が開設されたことにより、2年間は使用数が一時的に増加したと考えられる。今後は、高齢化の進展により、輸血用血液製剤を必要とする患者数は増加するものの、腹腔鏡下内視鏡手術など出血量を抑えた医療技術の進歩等により輸血用血液製剤の需要は横ばいまたは漸減傾向となると予測される。

## 3 収支状況

### (1) 事業収益

事業収益は、1,549,196千円（予算比101.4% 前年度比99.5%）

要因としては、輸血用血液製剤の供給量が年間を通じて、ほぼ当初予測どおりであったことによる。

(単位：千円)

		令和元年度 決算額	令和元年度 予算額	予算比 (%)	30年度 決算額	前年度比 (%)
中 四 国 ブ ロ ック	輸血用血液製剤供給収益	13,193,073	13,628,385	96.8	13,415,725	98.3
	その他事業収益	7,877	11,271	69.9	10,464	75.3
	事業外収益	256,215	100,059	256.1	380,718	67.3
	計	<u>13,457,165</u>	<u>13,739,715</u>	<u>97.9</u>	<u>13,806,907</u>	<u>97.5</u>
山 口 セ ン タ ー	輸血用血液製剤供給収益	1,548,854	1,527,306	101.4	1,556,496	99.6
	その他事業収益	342	227	150.7	311	110.0
	事業外収益	403	0		143	281.8
	計	<u>1,549,599</u>	<u>1,527,533</u>	<u>101.4</u>	<u>1,556,950</u>	<u>99.5</u>

## (2) 事業費用

事業費用は、1,085,372千円（予算比96.5% 前年度比97.5%）

事業費用は、予算を3.5ポイント抑えることができた。特に人件費は時間外労働の減少により6.6ポイント抑制できた。材料費が予算を越えたのは、血漿成分献血数の増加により採血キットや処遇品等の費用が増加したためである。

(単位：千円)

		令和元年度 決算額	令和元年度 予算額	予算比 (%)	30年度 決算額	前年度比 (%)
中 四 国 ブ ロ ック	人件費	5,919,307	6,076,918	97.4	5,875,864	100.7
	材料費	3,446,497	3,392,000	101.6	3,458,347	99.7
	経費	3,116,743	3,159,009	98.7	2,942,087	105.9
	事業外費用	60,483	66,314	91.2	402,413	91.2
	関連事業費用	9,928	7,909	125.5	11,503	86.3
	特別損失	15,355	16,000	96.0	17,915	85.7
	計	<u>12,568,313</u>	<u>12,718,150</u>	<u>98.8</u>	<u>12,688,081</u>	<u>99.1</u>
山 口 セ ン タ ー	人件費	631,539	676,144	<u>93.4</u>	621,419	101.6
	材料費	230,194	223,879	<u>102.8</u>	221,709	103.8
	経費	219,063	223,942	97.8	222,392	98.5
	事業外費用	4,576	650	704.0	47,150	9.7
	計	<u>1,085,372</u>	<u>1,124,615</u>	<u>96.5</u>	<u>1,112,670</u>	<u>97.5</u>

## 4 献血協力者を確保するための主な取り組み

## (1) 献血運動推進強調月間等におけるイベント等の開催

ア 13市における「愛の血液助け合い運動」イベントの開催

県内13会場で地域密着したイベント：献血者数（1,027人）

イ 地区献血協議会（8地区）における「はたちの献血」キャンペーンの開催

県内8会場で若年層への啓発イベント：献血者数（612人）

- ウ 山口県学生献血推進協議会主催によるイベントの開催
  - 「学生七夕献血」(7/7・7/14)
  - 「中四国学生統一献血キャンペーン」(9/8・9/16)
  - 「全国学生クリスマス献血キャンペーン」(12/1・12/22)

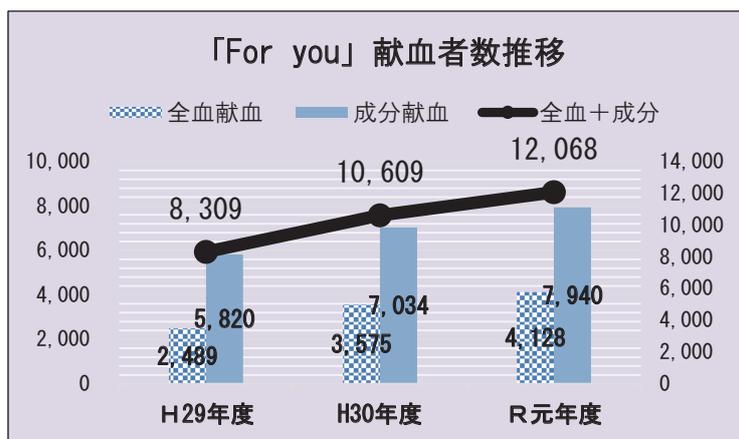
(2) 若年層献血者確保対策

- ア 高校献血(卒業献血)及び大学(専門学校含む)献血の実施
  - ・高校献血: 413人(前年度比87.7% 58人減)
    - 実施校: 13校(公立7校 私立6校 延べ14回)
  - ・大学献血: 2,347人(前年度比103.2% 72人増)
    - 実施校: 15校(大学11校 専門学校等4校 延べ43回)
- イ 「献血セミナー」「キッズ献血(献血模擬体験)」の拡充
  - ・献血セミナー参加者数: 1,922人
  - ・キッズ献血参加者数: 220人
- ウ 「けんけつキッズスクール～小学生親子体験教室」の開催(8/6・8/7)
  - ・参加者数: 34人(小学5・6年生、保護者)
- エ 献血読本「SEISHUN! 献血」(14,500部)の作成
  - ・県内高校、高専、支援学校高等部1年生に全員配布
- オ 「レノファ山口FCホームゲーム献血」の実施(再掲)
  - ・維新みらいふスタジアム(9/28): 献血者数68人
- カ 「第5回山口県部活動対抗献血選手権」の開催
  - ・高校部門121チーム: 献血者数301人
  - ・大学部門218チーム: 献血者数396人
- キ 「LINE@」及び「フェイスブック」の運用による献血情報の発信

(3) WEB(ラブラット)会員登録の拡充(旧複数回献血者クラブ会員)

- ・WEB会員数: 11,325人(R2.3月末)
- ・令和元年度新規登録者数: 1,304人(目標数1,250人、達成率104.3%)

5 「やまぐち献血ルームFor you」について



県内唯一の献血ルームとして平成30年3月にリニューアルした「やまぐち献血ルームFor you」は、年間を通じて計画的なイベント、キャンペーンを開催することにより順調に献血者が増えており、昨年度は12,000人を超える方々に来場いただいた。

## 12 評議員会及び監査

### (1) 評議員会

評議員会を次のとおり開催し、いずれの議案も原案どおり承認されました。

#### ①第1回評議員会 [令和元年6月13日(木) 於：KKRあさくら]

- 議案第一号 平成30年度日本赤十字社山口県支部事業報告  
及び一般会計歳入歳出決算について
- 議案第二号 平成30年度医療施設事業報告  
及び医療施設特別会計歳入歳出決算について
- 議案第三号 平成30年度血液センター事業報告について
- 報告事項 山口赤十字病院の病棟建替について

#### ②第2回評議員会 [令和2年2月3日(月) 於：ホテルニュータナカ]

- 議案第一号 令和2年度日本赤十字社山口県支部事業計画  
及び一般会計歳入歳出予算について
- 議案第二号 令和2年度医療施設事業計画  
及び医療施設特別会計歳入歳出予算について
- 議案第三号 令和2年度血液センター事業計画について
- 議案第四号 令和元年度一般会計歳入歳出補正予算について
- 報告事項 地域医療構想に係る公立・公的医療機関の  
役割再検証の要請への対応について  
令和元年の日本赤十字社の災害対応について

### (2) 監査

監査委員による平成30年度支部一般会計及び各施設特別会計の歳入歳出決算監査を下記日程で実施しました。

令和元年5月27日(月)	日本赤十字社山口県支部 山口県赤十字血液センター
令和元年5月29日(水)	山口赤十字病院
令和元年5月30日(木)	小野田赤十字病院

# 資料編



## 日本赤十字社山口県支部役員

令和2年6月1日現在

役職名	氏名	備考
支部長	村岡 嗣政	山口県知事
副支部長	小松 一彦	山口県副知事
副支部長	市川 熙	山口県市長会会長
支部参与	内海 隆明	山口県総務部長
支部参与	弘田 隆彦	山口県健康福祉部長
支部参与	繁吉 健志	山口県副教育長
監査委員	池内 英之	
	吉田 正治	
本社理事	藤家 幸子	本社代議員
本社代議員	原 昌克	
	西川 公博	
	徳田 文範	

## 日本赤十字社山口県支部評議員

氏名	選出区分	氏名	選出区分
川久保 賢隆	支部長	藤谷 允子	岩国市地区
中 繁 尊範	支部長	堀江 泰	岩国市地区
古川 英希	支部長	西川 公博	光市地区
岩野 雅子	支部長	竹林 敏子	長門市地区
藤家 幸子	支部長	嬉 静恵	柳井市地区
矢野 郷士	下関市地区	弘利 眞勝	美祢市地区
中司 征満	下関市地区	久野 三砂子	周南市地区
中野 リエ子	宇部市地区	佐久田 美智枝	周南市地区
徳田 文範	宇部市地区	岡本 志俊	山陽小野田市地区
原 昌克	山口市地区	椎木 巧	東部地区(周防大島町)
井上 美代子	山口市地区	松村 武	東部地区(和木町)
大島 昌子	萩・阿武地区(萩市)	中田 佳代子	東部地区(上関町)
広石 聖	防府市地区	平井 洋子	東部地区(田布施町)
坪郷 久榮	防府市地区	松浦 美香	東部地区(平生町)
市川 正紀	下松市地区	花田 憲彦	萩・阿武地区(阿武町)

# 地区・分区担当窓口一覧

令和2年3月現在

地区・分区	担当部課	〒	住 所	電話番号	FAX番号
下 関 市	総務部 防災危機管理課	750-8521	下関市南部町 1-1	083-231-9333	083-231-9966
菊 川	地域政策課 総務防災係	750-0313	下関市菊川町田部 734-1 下関市菊川総合支所	083-287-1112	083-287-2739
豊 田	地域政策課 総務防災係	750-0421	下関市豊田町大字殿敷 1918-1 下関市豊田総合支所	083-766-1051	083-766-2683
豊 浦	地域政策課 総務防災係	759-6301	下関市豊浦町大字川棚 6895-1 下関市豊浦総合支所	083-772-0612	083-774-3305
豊 北	地域政策課 総務防災係	759-5592	下関市豊北町大字滝部 3140-1 下関市豊北総合支所	083-782-0063	083-782-1717
宇 部 市	健康福祉部 地域福祉・指導監査課 福祉相談係	755-8601	宇部市常盤町 1-7-1	0836-34-8325	0836-22-6028
山 口 市	健康福祉部 地域福祉課 地域福祉担当	753-8650	山口市亀山町 2-1	083-934-2790	083-934-5087
徳 地	総合サービス課 健康福祉担当	747-0292	山口市徳地堀 1744 山口市徳地総合支所	0835-52-1121	0835-52-0760
秋 穂	総合サービス課 健康福祉担当	754-1101	山口市秋穂東 6570 山口市秋穂総合支所	083-984-8023	083-984-8041
小 郡	総合サービス課 健康福祉担当	754-8511	山口市小郡下郷 609-1 山口市小郡総合支所	083-973-8131	083-974-4387
阿 知 須	総合サービス課 健康福祉担当	754-1292	山口市阿知須 2743 山口市阿知須総合支所	0836-65-4114	0836-65-5188
阿 東	総合サービス課 健康福祉担当	759-1512	山口市阿東徳佐中 3417-2 山口市阿東総合支所	083-956-0794	083-956-0680
萩 市	保健福祉部 福祉政策課 地域福祉係	758-8555	萩市大字江向 510	0838-25-3550	0838-25-5103
川 上	市民窓口部門	758-0141	萩市川上 4462-1 萩市川上総合事務所	0838-54-2121	0838-54-2430
田 万 川	市民窓口部門	759-3112	萩市大字下田万 1036 萩市田万川総合事務所	0838-72-0300	0838-72-0303
む つ み	市民窓口部門	758-0304	萩市大字吉部上 3191-1 萩市むつみ総合事務所	0838-86-0211	0838-86-0760
須 佐	市民窓口部門	759-3411	萩市大字須佐 4570-5 萩市須佐総合事務所	08387-6-2016	08387-6-3406
旭	市民窓口部門	754-0411	萩市大字明木 3174 萩市旭総合事務所	0838-55-0211	0838-55-0217
福 栄	市民窓口部門	758-0212	萩市大字福井下 4013-1 萩市福栄総合事務所	0838-52-0121	0838-52-0262
防 府 市	健康福祉部 社会福祉課 社会係	747-8501	防府市寿町 7-1	0835-25-2349	0835-25-2549
下 松 市	社会福祉協議会 地域福祉係	744-0022	下松市西市 2-10-16	0833-41-2242	0833-41-2330
岩 国 市	健康福祉部 社会課 管理班	740-8585	岩国市今津町 1-14-51	0827-29-5070	0827-22-0181
由 宇	市民福祉課 福祉班	740-1428	岩国市由宇町中央 1-1-10 岩国市由宇総合支所	0827-63-1113	0827-63-1160

玖 珂	市民福祉課 福祉班		742-0392	岩国市玖珂町 5990 岩国市玖珂総合支所	0827-82-2513	0827-82-6139
本 郷	市民福祉班		740-0602	岩国市本郷町本郷 2082-1 岩国市本郷総合支所	0827-75-2582	0827-75-2366
周 東	市民福祉課 福祉班		742-0492	岩国市周東町下久原 1209-1 岩国市周東総合支所	0827-84-1113	0827-84-4386
錦	市民福祉課 福祉班		740-0724	岩国市錦町広瀬 12-8 岩国市錦総合支所	0827-72-2112	0827-72-2120
美 川	市民福祉班		740-0502	岩国市美川町四馬神 1057 岩国市美川支所	0827-76-0311	0827-76-0863
美 和	市民福祉課 福祉班		740-1231	岩国市美和町生見 12126 岩国市美和総合支所	0827-96-1113	0827-96-1712
光 市	福祉保健部 福祉総務課 福祉総務係		743-0011	光市光井 2-2-1 あいばーく光	0833-74-3000	0833-74-3070
長 門 市	市民福祉部 地域福祉課 地域福祉係		759-4192	長門市東深川 1339-2	0837-23-1245	0837-23-2061
日 置	地域窓口班		759-4401	長門市日置上 5914-3 長門市日置支所	0837-37-2111	0837-37-2567
三 隅	地域窓口班		759-3802	長門市三隅中 1473 長門市三隅支所	0837-43-0221	0837-42-0555
油 谷	地域窓口班		759-4503	長門市油谷新別名 964 長門市油谷支所	0837-32-1111	0837-32-2778
柳 井 市	健康福祉部 社会福祉課		742-8714	柳井市南町 1-10-2	0820-22-2111	0820-23-7566
美 祢 市	市民福祉部 地域福祉課 地域福祉係		759-2292	美祢市大嶺町東分 326-1	0837-52-5228	0837-52-1490
周 南 市	こども・福祉部 地域福祉課		745-0032	周南市岐山通 1-1	0834-22-8465	0834-22-8396
新 南 陽	市民福祉課		746-0034	周南市古市 1-4-1 周南市新南陽総合支所	0834-61-4113	0834-61-4242
熊 毛	市民福祉課		745-0663	周南市熊毛中央町 1-1 周南市熊毛総合支所	0833-92-0012	0833-92-0004
鹿 野	市民福祉課		745-0302	周南市大字鹿野上 3277 周南市鹿野総合支所	0834-68-2332	0834-68-2104
山陽小野田市	福祉部 社会福祉課 地域福祉係		756-8601	山陽小野田市日の出 1-1-1	0836-82-1174	0836-81-5695
東 部	柳井健康福祉センター 総務課		742-0032	柳井市古閑作中東条 658-1	0820-22-3631	0820-22-7286
周防大島町(旧橋町)	健康福祉部 福祉課		742-2806	周防大島町大字西安下庄 3920-21	0820-77-5505	0820-77-5111
和 木 町	社会福祉協議会		740-0061	和木町和木 2-15-22	0827-52-8644	0827-53-2822
上 関 町	保健福祉課 社会福祉係		742-1402	上関町大字長島 583-1	0820-62-0184	0820-62-1541
田 布 施 町	町民福祉課 福祉係		742-1592	田布施町大字下田布施 3440-1	0820-52-5810	0820-52-5967
平 生 町	町民福祉課 地域福祉班		742-1195	平生町大字平生町 210-1	0820-56-7113	0820-56-5603
阿 武 町	社会福祉協議会		759-3622	阿武町大字奈古 3081-5	08388-2-2615	08388-2-3615

# 救急法等講習実施状況

令和2年3月31日現在

開催地 区分	救急法		水上安全法		雪上安全法		健康生活支援講習		幼児安全法		家庭あんま術	回数合計	受講人数
	基礎	救急員養成 短期	養成I	養成II	短期	養成I	養成II	養成I	養成II	支援員養成			
下関市	1	0	10	0	0	0	0	0	1	0	1	14	461
宇部市	1	1	33	0	0	0	0	0	0	0	1	36	1,017
山口市	5	4	48	1	0	1	0	0	4	7	1	79	2,115
萩市	1	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	12	464
防府市	0	0	13	0	0	1	0	0	0	0	2	17	570
下松市	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	1	11	666
岩国市	0	1	76	0	0	5	0	0	0	0	5	87	2,949
光市	0	0	10	0	0	1	0	0	0	0	0	11	513
長門市	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	158
柳井市	0	0	14	0	0	0	0	0	0	1	0	15	698
美祢市	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	1	11	365
周南市	2	1	33	0	0	0	0	0	0	0	1	37	1,349
山陽小野田市	2	1	21	0	0	0	0	0	1	1	2	28	1,126
周防大島町	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	8	264
和木町	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	9	90
上関町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田布施町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平生町	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	4	108
阿武町	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	68
回数合計	13	10	309	2	0	8	0	0	5	10	1	383	-
受講人数	273	141	11,973	54	0	430	0	0	47	577	19	103	14,136

# 赤十字奉仕団一覽表

◎地域奉仕団

令和元年3月現在

番号	奉仕団名	団員数	委員長名	結成年月日
1	下関市赤十字奉仕団	500	草野和子	昭和50年6月11日
2	下関市菊川赤十字奉仕団	86	林幸子	昭和57年5月1日
3	下関市豊田赤十字奉仕団	56	三戸恵子	平成2年5月2日
4	下関市豊北赤十字奉仕団	520	山戸ミエ子	平成2年3月30日
5	宇部市赤十字奉仕団	334	中野リエ子	平成21年5月15日
6	山口市赤十字奉仕団	160	松永君子	昭和32年9月20日
7	山口市徳地赤十字奉仕団	143	蕨昭子	昭和62年7月10日
8	山口市小郡赤十字奉仕団	100	井上美代子	昭和62年4月1日
9	山口市阿知須赤十字奉仕団	160	上野房枝	平成21年4月30日
10	山口市阿東赤十字奉仕団	350	貝森澄代	平成6年5月1日
11	萩市赤十字奉仕団	23	山下清子	昭和43年8月23日
12	萩市川上赤十字奉仕団	18	厚東登子	平成9年9月1日
13	萩市江崎赤十字奉仕団	104	嶋田恵子	平成9年10月20日
14	萩市小川赤十字奉仕団	8	鍛冶谷由乃	平成9年10月20日
15	萩市むつみ赤十字奉仕団	64	田中征子	平成8年4月1日
16	萩市須佐赤十字奉仕団	109	田村光子	平成7年4月4日
17	萩市旭赤十字奉仕団	175	藤家幸子	昭和55年9月1日
18	萩市福栄赤十字奉仕団	30	柴田京子	平成9年4月1日
19	防府市赤十字奉仕団	352	坪郷久榮	昭和36年4月13日
20	下松市赤十字奉仕団	460	古田尊子	昭和32年4月1日
21	岩国市赤十字奉仕団	416	藤谷允子	昭和56年2月1日
22	岩国市由宇町赤十字奉仕団	12	石原明美	昭和53年8月3日
23	岩国市玖珂町赤十字奉仕団	136	永岡公美子	平成7年4月1日
24	岩国市本郷町赤十字奉仕団	63	藤本千壽恵	平成8年4月1日
25	岩国市周東町赤十字奉仕団	165	藤井チエ子	平成4年9月8日
26	岩国市美川町赤十字奉仕団	76	上村康子	平成7年9月1日

番号	奉仕団名	団員数	委員長名	結成年月日
27	岩国市美和町赤十字奉仕団	75	上尾英子	平成9年1月31日
28	長門市赤十字奉仕団	177	深本康子	昭和57年4月1日
29	長門市三隅赤十字奉仕団	11	竹林敏子	平成9年2月17日
30	長門市日置赤十字奉仕団	135	前原喜久子	平成7年11月20日
31	長門市油谷赤十字奉仕団	206	嶋田衣代	昭和56年4月1日
32	柳井市赤十字奉仕団	458	嬉静恵	昭和29年10月1日
33	美祢市赤十字奉仕団	200	杉山秋子	昭和48年9月1日
34	周南市徳山赤十字奉仕団	120	石田睦子	昭和39年10月10日
35	周南市熊毛赤十字奉仕団	130	佐久田美智枝	平成9年5月1日
36	周南市鹿野赤十字奉仕団	101	有國美恵子	平成3年4月1日
37	山陽小野田市赤十字奉仕団	710	岡部つや子	昭和35年4月1日
38	周防大島町赤十字奉仕団	67	中元みどり	平成26年4月1日
39	和木町赤十字奉仕団	164	藤本亮恵	平成7年9月1日
40	上関町赤十字奉仕団	549	中田佳代子	昭和63年9月1日
41	田布施町赤十字奉仕団	632	平井洋子	昭和63年9月1日
42	平生町赤十字奉仕団	400	松浦美香	昭和63年9月1日
43	阿武町赤十字奉仕団	139	藤田恒代	平成7年7月27日
	合計 43 団	8,894		

◎青年奉仕団

番号	奉仕団名	団員数	委員長名	結成年月日
1	宇部青年赤十字奉仕団	11	徳田文範	昭和39年4月1日
2	山口大学学生赤十字奉仕団	36	佐伯鴻太	昭和47年6月22日
3	山口県立大学学生赤十字奉仕団	20	川崎佳穂	平成29年2月15日
	合計 3 団	67		

◎特殊奉仕団

番号	奉仕団名	団員数	委員長名	結成年月日
1	山口県赤十字安全奉仕団	151	大立浩嗣	昭和60年4月5日
2	山口県赤十字アマチュア無線奉仕団	91	上利雅幸	平成2年3月25日
3	山口県青少年赤十字賛助奉仕団	45	藏本隆博	平成15年6月10日
4	岩国赤十字災害救護奉仕団	60	松井謙治	平成15年7月22日
5	山口県赤十字防災奉仕団	59	藤本浩志	平成18年4月22日
	合計 5 団	406		

◎個人ボランティア（山口、小野田赤十字病院）

番号	人数
1	87



# 山口県青少年赤十字加盟校（園）一覧表

令和2年3月末現在

## 1. 保育園

連番	保育園名
1	清 華
2	ひろせ
計	2園

幼保	18園
小学校	76校
中学校	28校
高等学校	37校
総合支援学校	1校
計	160園・校

## 2. 幼稚園

連番	幼稚園名	連番	幼稚園名
1	岩 国 南	10	大 内
2	宮 野	11	秋 穂
3	吉 敷	12	山口県鴻城高等学校附属
4	平 川	13	阿 知 須
5	名 田 島	14	野田学園
6	三 島	15	藤村学園旭
7	鑄 錢 司	16	亀 山
8	仁 保	計	16園
9	小 鯖		

## 3. 小学校

連番	小学校名	連番	小学校名
1	小 瀬	43	菊 川
2	御 庄	44	岐 山
3	藤 河	45	秋 月
4	杭 名	46	鼓 南
5	河 内	47	富 田 東
6	通 津	48	福 川
7	岩 国	49	大 河 内
8	装 港	50	大 殿
9	川 下	51	湯 田
10	愛 宕	52	良 城
11	由 西	53	平 川
12	そ お	54	嘉 川
13	川 上	55	興 進
14	米 川	56	佐 山
15	修 成	57	仁 保 郡
16	周 北	58	小 野 郡
17	美 和 東	59	柚 野 木
18	美 和 西	60	生 雲
19	和木町立 和 木	61	勝 間
20	柳井町立 柳 井	62	右 田
21	伊 陸	63	新 田
22	柳 井 南	64	二 俣 瀬
23	柳 井 東	65	厚 東
24	田布施町立 城 南	66	小 野
25	平生町立 佐 賀	67	重 安
26	下 松	68	秋 吉
27	久 保	69	秋 芳 桂 花
28	公 集	70	名 池
29	豊 井	71	関 西
30	花 岡	72	清 末
31	中 村	73	小 串
32	米 川	74	宇 賀
33	東 陽	75	吉 賀 田
34	室 積	76	長門市立 浅 田
35	島 田		
36	浅 江		
37	光 井		
38	周 防		
39	塩 田		
40	三 輪		
41	岩 田	計	76校
42	東 荷		

#### 4. 中学校

連番	中学校名	連番	中学校名	
1	岩国市立	17	宇部市立 黒石	
2		18	厚保	
3		19	美祢市立 於福	
4	和木町立	20	秋芳	
5	柳井市立	21	下関市立 菊川	
6		22	豊北	
7	周南市立	23	萩市立	
8	福川	24		越ヶ浜
9	大 殿	25		須 佐
10	山口市立	26	旭	
11		白 石	長門市立	三 隅
12		湯 田		菱 海
13		鴻 南	阿武町立	阿 武
14		平 川		
15	防府市立	15		
16		小 郡		
		16		
		17		
		18		
		19		
		20		
		21		
		22		
		23		
		24		
		25		
		26		
		27		
		28		
		計	28校	

#### 5. 高等学校

連番	高等学校名	連番	高等学校名
1	高 森	21	山口県鴻城
2	熊毛南	22	萩
3	光	23	萩商工
4	光 丘	24	宇部中央
5	聖 光	25	宇 部 西
6	華 陵	26	宇部商業
7	下松工業	27	宇部工業
8	德 山	28	宇部鴻城
9	徳山高等学校鹿野分校	29	宇部フロンティア大学付属香川
10	新 南 陽	30	小 野 田
11	徳山商工	31	豊 浦
12	南陽工業	32	長 府
13	防 府	33	下 関 西
14	防 府 西	34	下 関 南
15	防府商工	35	響
16	高川学園	36	下 関 北
17	山 口	37	下関商業
18	山口中央		
19	西 京		
20	中村女子	計	37校

#### 6. 総合支援学校

連番	総合支援学校名
1	山口南総合
計	1校

# 日本赤十字社山口県支部現勢（令和元年度）

・ 赤十字基本原則 人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

（令和2年3月末現在）

<p>・ 役 員</p> <p>支部長 村岡 嗣 政 副支部長 弘 中 勝 久 副支部長 市 川 熙 監査委員 池 内 英 之 監査委員 吉 田 正 治 本社理事 藤 家 幸 子 本社代議員 藤 家 幸 子 原 昌 克 西 川 公 博 徳 田 文 範</p> <p>評議員 30人</p>	<p>・ 国際活動資金援助</p> <p>アジア・大洋州給水支援事業 75.8万円</p>
<p>・ 会 員</p> <p>個人 797人 法人 1,498法人</p>	<p>・ 医 療</p> <p>病院 2施設 病床数 559床 患者延数 外来 178,215人 （1日平均） 743人 入院 171,278人 （1日平均） 468人</p>
<p>・ 赤十字奉仕団</p> <p>団 数 51団 団員数 9,367人</p>	<p>・ 老人保健施設</p> <p>小野田赤十字老人保健施設 入所定員 100人 通所定員 30人</p>
<p>・ 青少年赤十字</p> <p>加盟校（園）数 18園142校 メンバー数 26,081人</p>	<p>・ 血 液</p> <p>血液センター 1施設 出張所 2施設 移動採血車 4台 血液運搬車 19台 献血者数 48,091人 成分献血 7,034人 400ml 献血 40,563人 200ml 献血 494人 供給数 血液製剤 184,936本</p>
<p>・ 救護・救援</p> <p>常備救護班 8班 救護要員総数 475人 救急車 4台 通信指令車 1台 災害救援車 4台 無線基地局 3局 無線移動局 55局 NBC除染セット 1セット テント（パイプ組立式） 13張 エアーテント 1張 救援用毛布 760枚 緊急セット 1,092個 安眠セット 124個</p>	<p>・ 職 員（正職員）</p> <p>支 部 10人 山口赤十字病院 676人 小野田赤十字病院 116人 老人保健施設 46人 血液センター 57人 計 905人</p>
<p>・ 養 成</p> <p>救急法指導員 175人 水上安全法指導員 26人 幼児安全法指導員 75人 健康生活支援講習指導員 31人</p>	<p>・ 山口県日赤紺綬有功会</p> <p>会員数 69人</p>

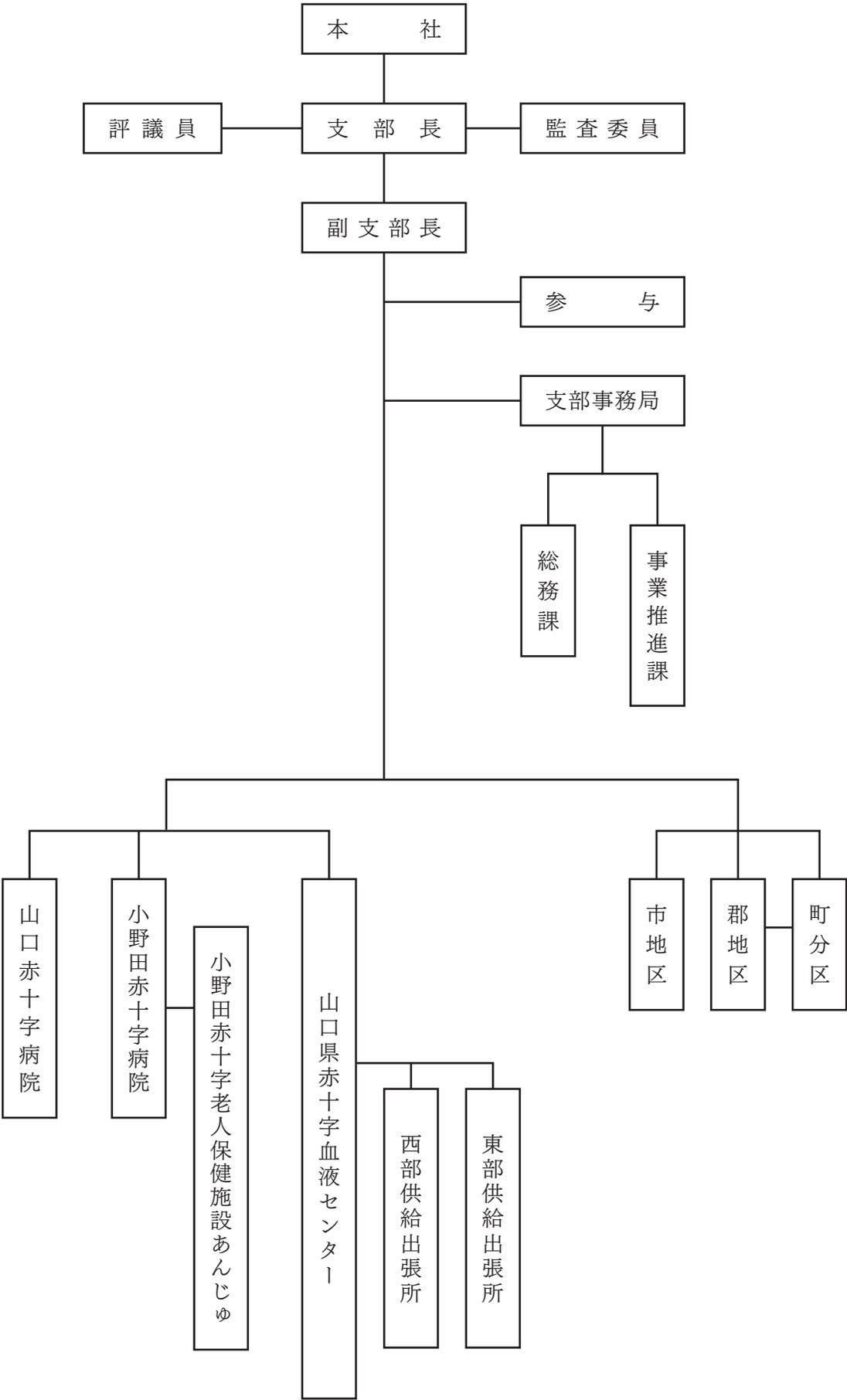
# 令和元年度 活動資金募集進展状況表

平成31年4月1日～令和2年3月31日

地区名	一般社資			法人社資			合計		
	目標額 千円	実績額 円	達成率 %	目標額 千円	実績額 円	達成率 %	目標額 千円	実績額 円	達成率 %
下関市	38,460	28,238,934	73.4	3,429	2,853,000	83.2	41,889	31,091,934	74.2
宇部市	24,200	22,462,137	92.8	1,966	1,759,826	89.5	26,166	24,221,963	92.6
山口市	29,280	22,181,708	75.8	2,482	3,595,929	144.9	31,762	25,777,637	81.2
萩・阿武	7,040	5,186,744	73.7	556	456,500	82.1	7,596	5,643,244	74.3
防府市	16,160	14,679,174	90.8	1,759	1,117,000	63.5	17,919	15,796,174	88.2
下松市	8,140	6,965,513	85.6	781	839,500	107.5	8,921	7,805,013	87.5
岩国市	19,480	14,426,967	74.1	1,444	1,325,000	91.8	20,924	15,751,967	75.3
光市	7,020	8,686,900	123.7	583	480,000	82.3	7,603	9,166,900	120.6
長門市	4,800	5,341,000	111.3	357	408,098	114.3	5,157	5,749,098	111.5
柳井市	4,740	5,270,829	111.2	392	391,000	99.7	5,132	5,661,829	110.3
美祢市	3,280	5,202,683	158.6	351	338,000	96.3	3,631	5,540,683	152.6
周南市	20,780	13,869,344	66.7	2,538	1,501,000	59.1	23,318	15,370,344	65.9
山陽小野田市	8,680	7,220,524	83.2	877	639,113	72.9	9,557	7,859,637	82.2
地区計	192,060	159,732,457	83.2	17,515	15,703,966	89.7	209,575	175,436,423	83.7
周防大島町	2,500	3,469,029	138.8	151	125,000	82.8	2,651	3,594,029	135.6
和木町	860	902,500	104.9	47	0	0.0	907	902,500	99.5
上関町	440	466,000	105.9	38	85,000	223.7	478	551,000	115.3
田布施町	2,060	2,455,950	119.2	122	116,000	95.1	2,182	2,571,950	117.9
平生町	1,600	1,894,500	118.4	95	182,000	191.6	1,695	2,076,500	122.5
東部	7,460	9,187,979	123.2	453	508,000	112.1	7,913	9,695,979	122.5
阿武町	480	709,600	147.8	32	40,000	125.0	512	749,600	146.4
分区計	7,940	9,897,579	124.7	485	548,000	113.0	8,425	10,445,579	124.0
支部	5,000	76,464,507	1529.3	2,000	6,901,787	345.1	7,000	83,366,294	1190.9
本社(※)	4,000	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	209,000	246,094,543	117.7	20,000	23,153,753	115.8	229,000	269,248,296	117.6

※本社で受け付けた口座振替・クレジットカードによる活動資金は、寄付者の居住地の地区・分区の実績に反映されています。

# 日本赤十字社山口県支部組織図



# 新型コロナウイルス感染防止に伴う 赤十字のアクション

日本赤十字社では、「人のいのちと健康を守る」という使命のもと、クルーズ船への医療チームの派遣にはじまり、現在も全国の赤十字病院を中心に新型コロナウイルス感染症の治療及び感染拡大防止のための情報発信などに務めています。

## 医療チームの派遣

(クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」、  
武漢チャーター便帰国者対応)

船内及び下船者、チャーター便帰国者の滞在施設で不安な気持ちを抱えた方々に寄り添いながら救護活動に当たりました。

(255人の医師・看護師等を派遣)

## 感染予防啓発活動

(動画配信・パンフレット)

ホームページやFacebookで手洗いの仕方等、感染予防のための情報発信を行っています。また、精神面でのガイドも作成し、啓発活動を行っています。青少年赤十字向け教材も作成し、ホームページやメールで学校に周知しています。

こちらからご覧ください →



## 患者の受入

都道府県から感染症指定医療機関として要請を受けた全国の赤十字病院で、患者さんを受け入れています。未知のウイルスに対応する医師や看護師は、切迫した状況の中で、日々懸命に治療にあたっています。

「いかに勝つかではなく、いかに負けないか。」  
コロナとの極限の戦いが続いています。

## 深刻な血液不足への対応

新型コロナウイルス拡大による外出自粛を受け、献血に来てくださる方が減少しています。血液を日々安定的に患者さんに提供するため、協力の呼びかけを行い、また安心して献血に来ていただけるよう、徹底した安全対策を実施しています。

～献血への協力は、不要不急の外出にはあたりません！～

## 全国の医療従事者への応援プロジェクトの実施

全国のみなさんから、赤十字病院だけでなく、全国の医療従事者への応援プロジェクトとして、#最前線にエールを何度でも を実施しています。

ご自身のSNSで、「#最前線にエールを何度でも」をつけてメッセージソングムービーと一緒に、最前線の方々へのエールを発信していただだけませんか？

#最前線にエールを何度でも

詳しい活動については

日赤 山口県支部

検索

お問い合わせ先：日本赤十字社山口県支部

☎083-922-0102

